

平成28年度版
京都市の学校評価システム

平成27年度実施状況

— 「自らを振り返り」「互いに高め合う」 —

平成28年9月

京都市教育委員会

目 次

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方	2
2 重点項目	5
3 実施状況	5
4 学校評価関係年表	17

II 学校での取組事例

1 京都市立久世西小学校	21
2 京都市立嵯峨小学校	32
3 京都市立嵯峨中学校	47

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、学校評価を導入するにあたり、平成13年度に校長会との共同プロジェクトを立ち上げ、学校評価の試行実施を開始した。その後、2年間の議論と実践をもとにプロジェクトのまとめ「今、学校にもとめられているもの」を発行すると同時に「京都市学校評価ガイドライン」を策定し、学校と家庭・地域が、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係を築くことを目指す学校評価を平成15年度から全校で実施した。

○その後の経過

H16年	全校での評価結果の公表
H18年12月	学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会の設置
H19年4月	「京都市学校評価ガイドライン（平成15年度版）」の改訂（第2版）
H19年6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行
H19年7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 (学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正)

この間、学校評価活動を深化させながら、PDCAサイクルによる「学校評価システム」の着実な浸透を図ってきた。また、国においても、学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」も努力義務化された。

こうした状況を踏まえ、平成21年6月には、次の4点を柱とした「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」を策定し、学校評価の充実に努めている。

(1) 学校評価をみんなのものにする

各学校では、全教職員が学校目標とその具現化に向けた実践を行うと同時に、評価項目・指標・評価結果を共有し、「自己評価」を今後の教育活動の改善に結び付けるとともに、保護者・地域の方々による「学校関係者評価」やそれらの評価結果の公表を行っている。こうした取組を通して、学校評価は、教職員はもとより、保護者・地域の方々も含めた「自分ごと」となり、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学校生活を「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

(2) 当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、教職員や学校関係者は学校を単なる評価対象として見るのではなく、よりよい学校づくりを進める当事者としての意識を持って評価することを基本としている。特に、学校関係者による評価では「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、「学校改善に向けた支援策」についても明記していただくことにしている。

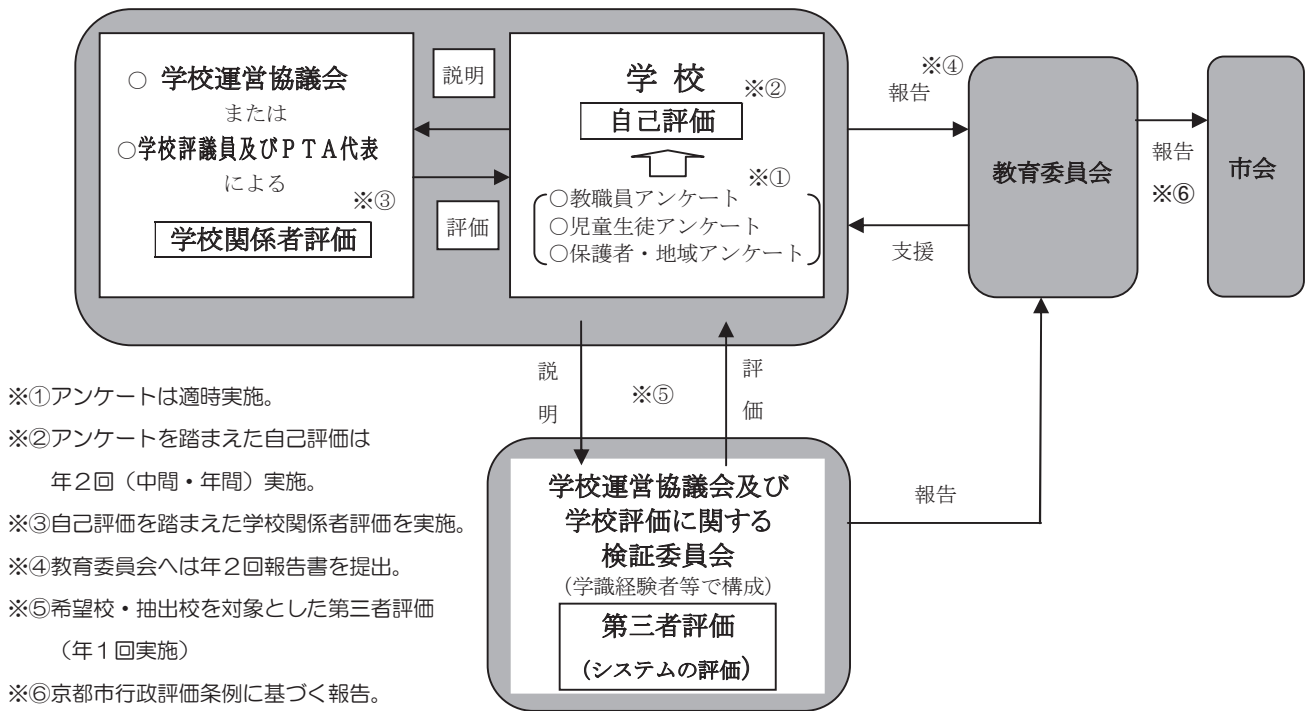
(3) 自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、学校評価システムの導入当初から、保護者・地域等が学校を一方向的に評価するのではなく、それぞれがそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」そして、「子どもたちは、自らの学習に向かう学びの姿勢を振り返る」など、「それぞれが自らを振り返る」という視点を持つことにより、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係の構築を目指し、取り組んでいる。

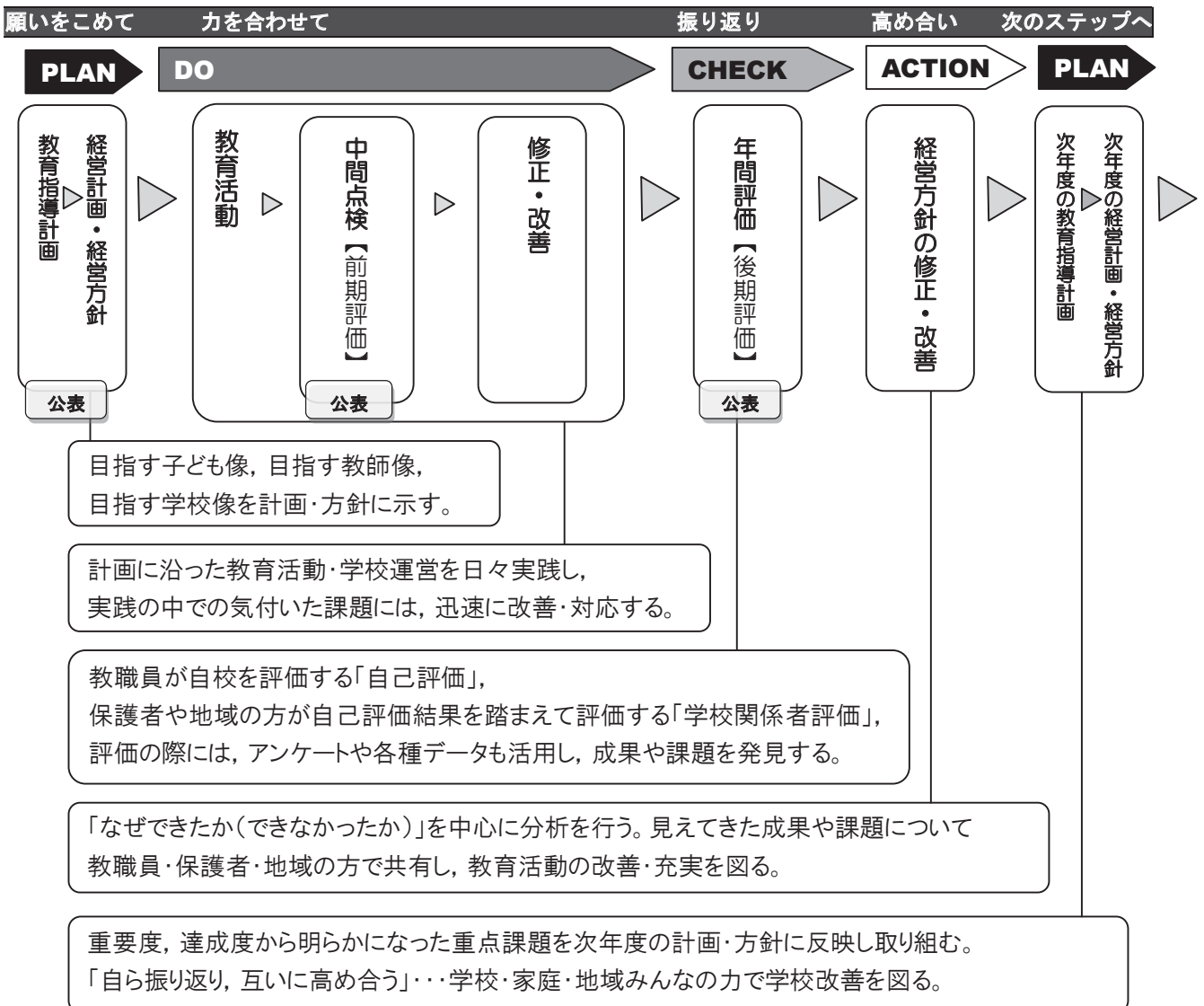
(4) 学校の魅力を発見し、発信する

学校評価を実施することで学校の課題を把握し、その克服・改善に向けた取組に結びつけるためには、学校の魅力が見える評価手法を用いることが重要である。本市では、アンケート作成・集計・分析が可能な「学校評価支援システム」（本市独自作成）を活用し自校の魅力や課題が一目で分かる魅力・課題発見型（ニーズ調査型）のアンケート手法を導入している。これらの結果の概要は全ての学校のホームページで公開するとともに「学校だより」等でも保護者や地域の方に積極的に情報を発信している。

《自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図》

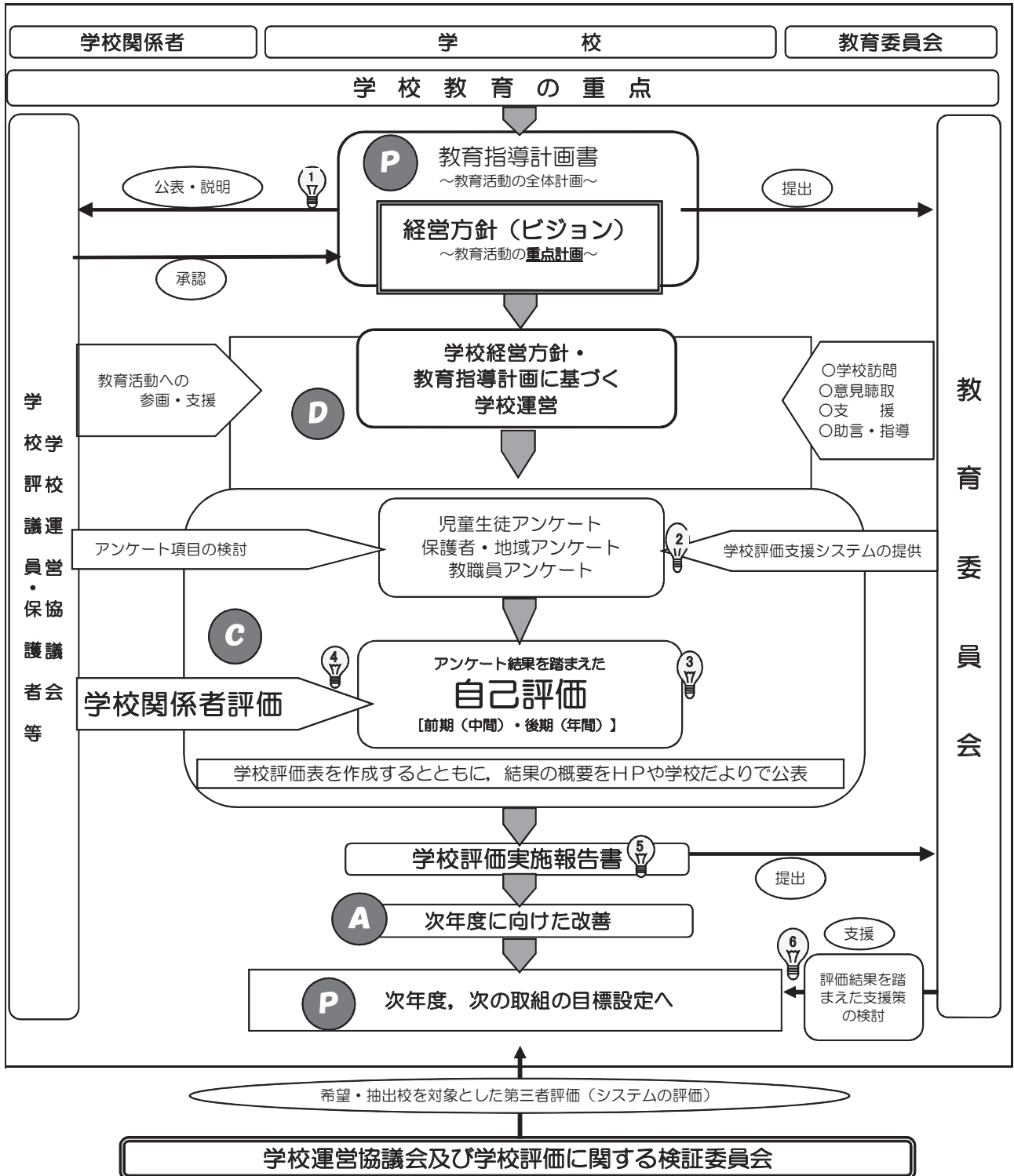


《PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ》



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

2 重点項目

平成27年度は、これまでの取組の上に立って、学校評価の一層の充実を目指し、以下の4点を主な取組とした。

- (1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による学校訪問（第三者評価）の実施にあたり、本市において平成23年度から全中学校区で実践している「小中一貫教育」の取組を評価するため、中学校区単位での学校訪問とし、また、子どもたちや学校運営協議会委員と交流する場を設定。
- (2) 各校においてアンケート作成・集計・分析を行うための「学校評価支援システム」（本市独自作成・平成26年度～運用開始）について、アンケート作成や集計をより効率的に、結果分析をより多面的に実施できるよう充実。
- (3) 文部科学省の委託を受け、義務教育9年間の子どもの学びと育ちを支援する体制を整え、かつ、学校・家庭・地域が協働性を高め自律的に教育活動を充実させていくための学校評価や学校運営協議会の在り方について研究。
- (4) 各校で作成する「学校評価実施報告書」の様式について、各校の評価項目に加え、毎年度教育委員会で定める「学校教育の重点」における「学校教育において重視する視点」を評価項目に設定。（平成28年度報告から変更後の様式を使用）

3 実施状況

(1) 「自己評価」の実施状況

全ての学校で、保護者、児童生徒によるアンケートを実施するとともに、それらをもとにした「自己評価（学校教育法施行規則第66条で平成19年から義務化）」を行った。それらの結果については、各学校において学校評価を特集した学校だよりやホームページ等で公表した。

(2) 「学校関係者評価」の実施状況

「学校関係者評価（学校教育法施行規則第67条で平成19年から努力義務化）」については、全ての学校で、「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」で学校から「自己評価の結果」と「学校としての改善策」を説明したうえで、学校運営協議会委員や学校評議員から意見だけではなく、子どもたちや学校の課題に対する支援策についても言及していただくこととしており、課題に即した支援の充実や取組の見直しが進められている。

具体的には、総合的な学習の時間に関わる地域ボランティアの充実や、家庭での読書に関する意識を高めるための親子読書の実施、地域行事の中で子どもが活躍する場面を増やす等、様々な面での支援の充実・改善に繋がっている。

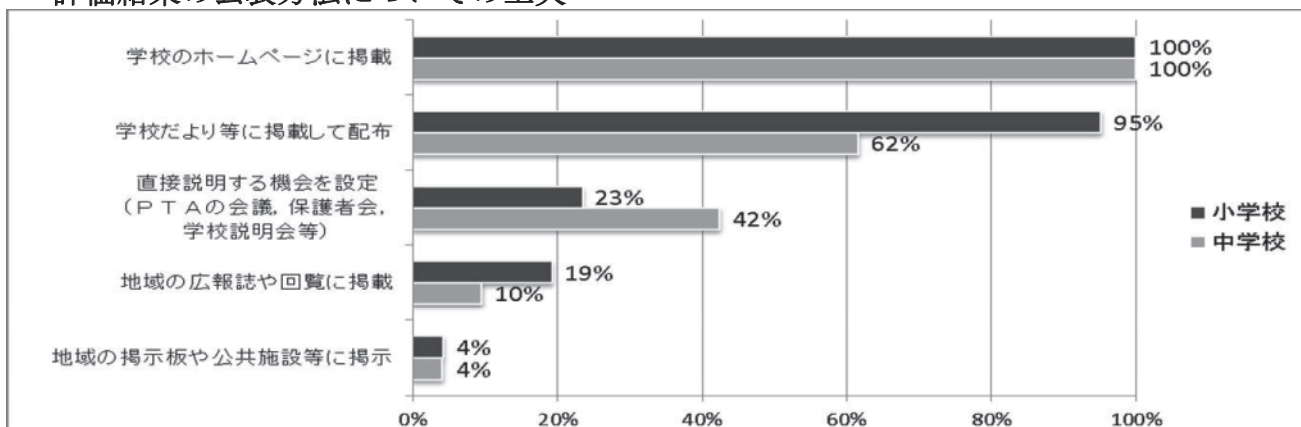
(3) 学校評価の実施にあたって

全ての学校に対し、「評価結果の公表方法及び内容の工夫」や「実施にあたっての課題」、「学校評価の効果」についてのアンケートを実施し、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。

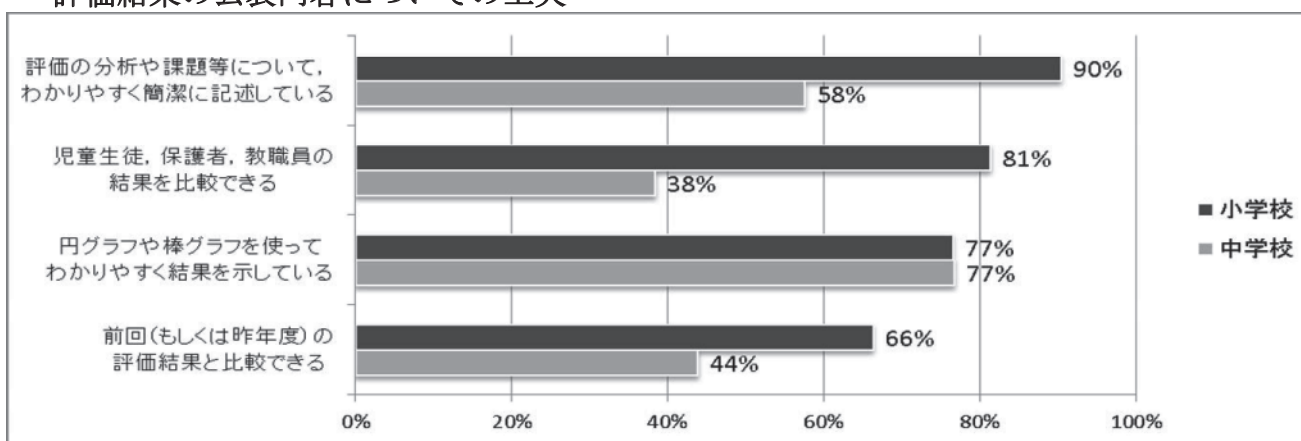
ア 公表方法や内容の工夫について

評価結果の公表については、全校で学校評価の結果をホームページに掲載しているが、その中でも昨年度に引き続き小学校の9割以上が学校だより等へ掲載しているほか、直接説明する機会を設けたり、地域の掲示板に掲載したりするなど、それぞれの学校で保護者や地域の方々に対して積極的な公表を行っている。さらに、多くの学校では、評価結果の分析や課題等についての説明を記載するとともに、グラフを使って結果を示したり、同内容のアンケートについて児童生徒・保護者・教職員それぞれの結果を比較したりするなどの方法を用いて、わかりやすい公表に努めている。また、約7割の中学校区において同一中学校区内の他の小学校や中学校の評価結果を共有しており、地域の子どもの課題把握や課題解決等に向け、小中一貫教育の視点を持ちながら学校評価を実施していることが見受けられる。

評価結果の公表方法についての工夫



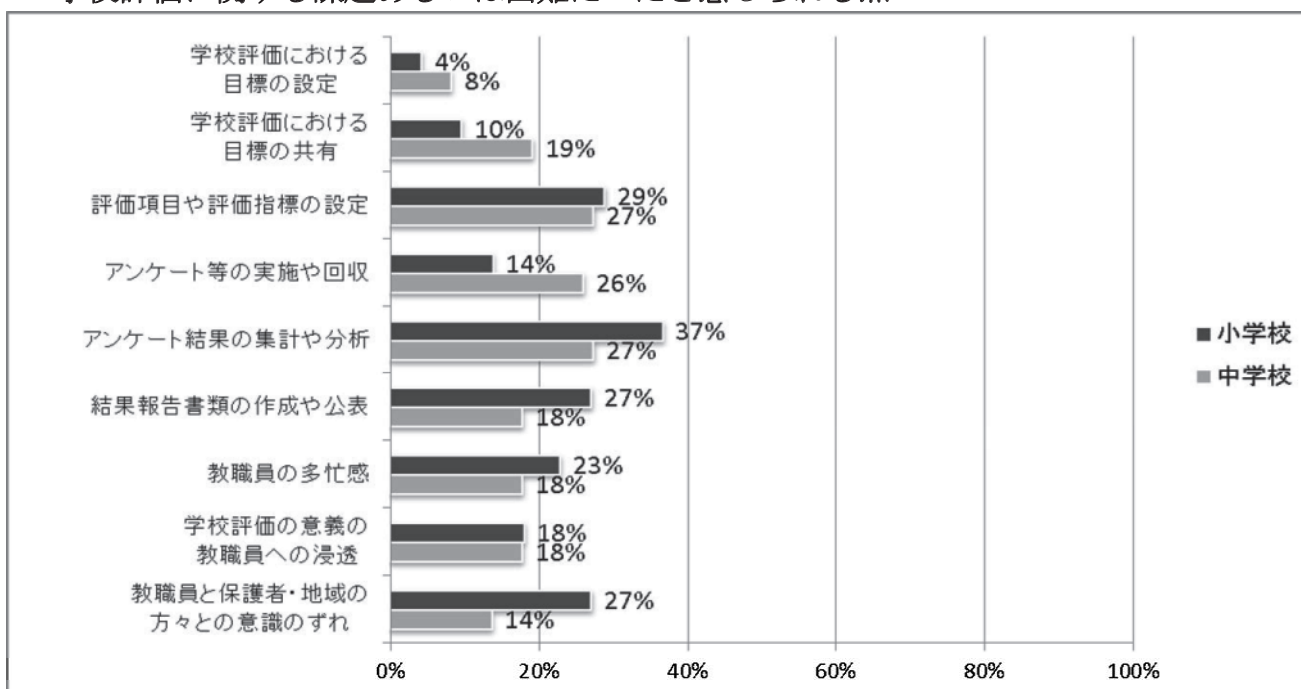
評価結果の公表内容についての工夫



イ 課題について

学校評価の課題としては、アンケートの実施や回収、集計、分析等の作業が煩雑となる傾向にあり、教職員の事務負担の軽減に向け作業の効率化を図ることが必要であるため、平成26年度から導入している本市独自の学校評価支援システムについて、適宜運用を図っているところである。保護者・地域アンケートの回収率は約8割となっており、今後も学校・家庭・地域の信頼関係を基礎に、学校評価の取組を推進していく。

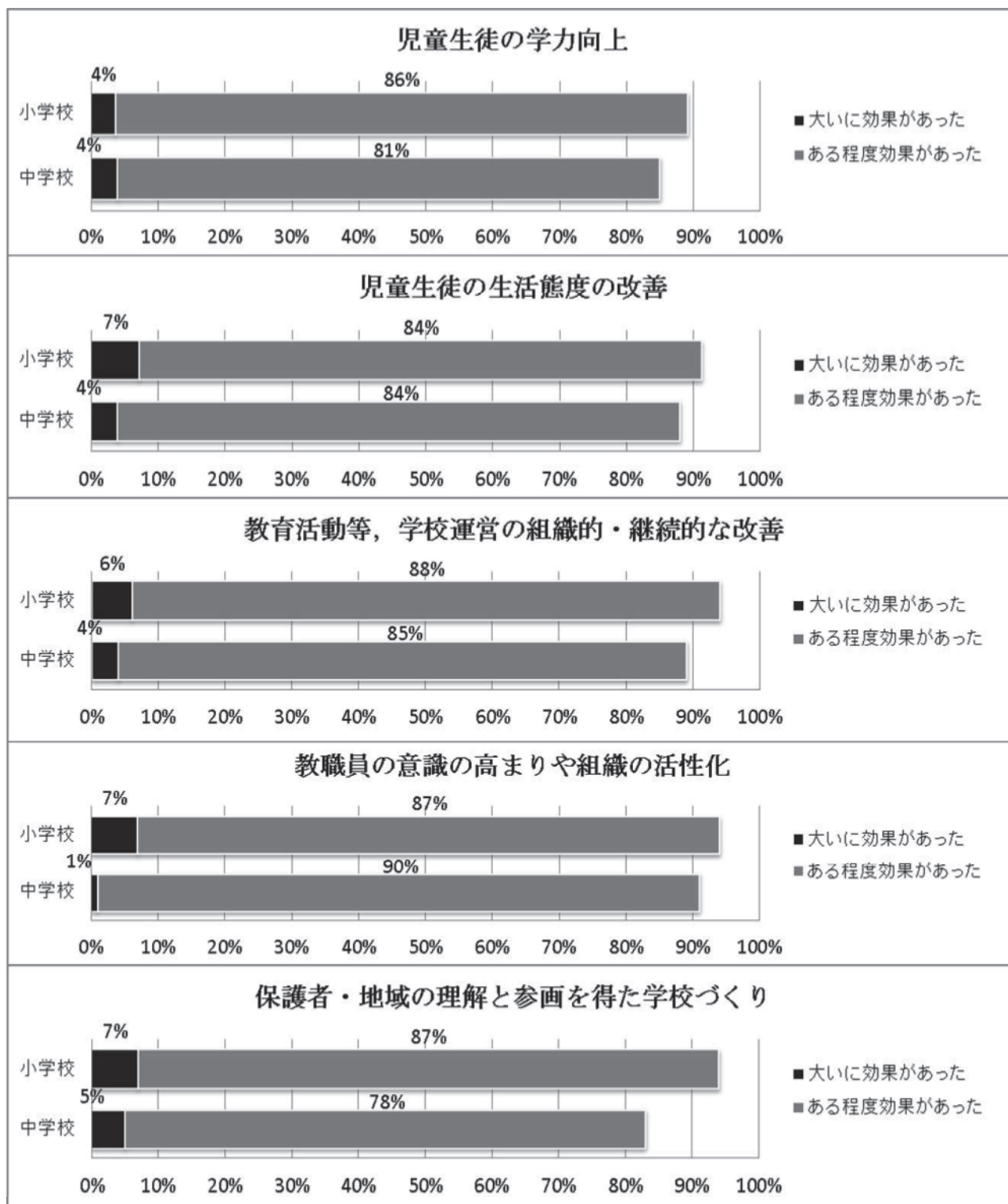
学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



ウ 効果について

学校評価の効果については、8割を超える学校で児童生徒の学力向上や生活態度の改善等に効果があるとの結果が出ている。これは、学校評価により子どもたちの課題を適切に捉え、教育活動の充実・改善に取り組んできた成果と考えられる。また、教職員の意識の高まりや組織の活性化、教育活動等学校運営の組織的・継続的な改善、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりといった、子どもたちを取り巻く学校・家庭・地域の力を向上させ、お互いに連携・協働して子どもたちの学びと育ちを支える観点からも効果が認められる。引き続き、学校評価を学校改善・子どもたちの課題克服のための仕組みとして有効に活用できるよう取組を進めていく。

学校評価の効果について



(4) 「第三者評価」等の実施状況

ア 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」について

学校評価の実施状況や本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で学校の教育の質の向上につなげるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【検証委員会委員（27年度）敬称略・肩書は委員任命当時のもの】

○天笠 茂	千葉大学教授
岩佐 恭子	P T A代表（紫野小，京都市小学校P T A連絡協議会庶務）
加藤 明	関西福祉大学学長
◎小松 郁夫	流通経済大学教授
塩尻 マユミ	元向島南小学校長・元地域教育専門主事室副室長
辻 敏夫	公募委員（砂川小学校学校運営協議会委員）
西川 信廣	京都産業大学教授
堀内 孜	兵庫教育大学特任教授
森 祥子	公募委員（蜂ヶ岡中学校学校運営協議会委員）
高橋 由記子	京都市立西院幼稚園長
岸田 蘭子	京都市立高倉小学校長
村田 博哉	京都市立京都御池中学校長
中東 朋子	京都市立桃陽総合支援学校長
島本 由紀	京都市教育委員会学校指導課長

※ ◎は委員長，○は副委員長

イ 平成27年度 検証委員会開催状況

① 第1回会議

- ・日 時 平成27年11月25日（水）15：30～
- ・会 場 京都市総合教育センター2階 第4研修室
- ・議 題 検証委員会の学校訪問について
学校評価及び学校運営協議会について

・議事概要

（検証委員会の学校訪問について）

- 小中一貫教育の観点から，同一中学校区の小学校及び中学校を訪問していきたい。
- 学校教育活動の柱である授業から子どもたちや学校の課題が見えることが多い。子どもたちや学校の姿を，授業時間を通して見ていきたい。
- 今までは学校マネジメントの中心である校長との懇談時間が多かったが，可能であれば学校運営協議会委員をはじめ地域の方々や保護者，また子どもたちとも直接意見交流できる機会を設けていただきたい。

（学校評価及び学校運営協議会について）

- 学校運営協議会・小中一貫教育・学校評価を一体的に繋げることは，中学校の存在感や中学校区のリーダーとしての役割を明確化させる良いツールではあるが，なかなか実効性は上がっていない。小学校は小学校，中学校は中学校で動くという従来の方式から脱却することが重要ではないか。

- 学校評価システムにあるアンケートは、保護者側から捉えると幼稚園期・小学校期・中学校期と長年にわたり回答を作成しているもの。「アンケートに回答することは、学校を良くすることに繋がる大切なことだ」という意識を保護者に持ってもらえるよう、ねらいを明確にしたアンケートの実施が肝要である。また、学校評価の目的の1つでもある「学校と地域の関係構築」がどこまで地域に浸透しているかも、アンケートの回答内容等から分析できる。
- 学校が子どもたちの学習意欲や学力向上に向けて努力することはもちろん重要であるが、学校運営協議会をはじめ地域の方々や学生ボランティアを巻き込んで共に子どもたちを支援することもこれからの大切な視点ではないか。
- 地域の方々にとっては小学校の学校運営協議会のほうが思い入れが強くなることは多いが、近年小中学校間の交流や連携が増えてきており、中学校の学校運営協議会としても小学校の学校運営協議会との交流を深めながら、学校と共に成長していくことが望ましい。
- 今後は、小中学校の学校運営協議会同士で話し合い、それぞれの学校や基盤となる地域の特性を大切にしつつ、中学校区の力を向上させていくことができる小中合同の学校運営協議会を作っていくことがよいのではないか。

② 検証委員会による学校訪問

本市の学校評価システムが、学校現場において、学校改善に向けたシステムとしての確に機能しているかどうかを検証するため、学校訪問を実施した。平成27年度の学校訪問にあたっては、本市において平成23年度から全中学校区で実践している小中一貫教育の取組を評価いただくため、中学校区単位での学校訪問とし、また、子どもたちや学校運営協議会委員と意見交流する場を設定した。

その結果、委員から「同一中学校区の小学校と中学校を訪問することによって、その地域の子どもたち・学校・地域の特性を踏まえて、小中一貫教育も含め学校評価が機能しているかを検証することができた。」「小中学校同士、また地域の方々同士のチームワークが良いことで、子どもたちも『地域全体に支えられている』という意識を素直に持つことができている。」等の評価をいただいた。

また、今後に向けた課題としては、「教員も日々の授業や業務で多忙な中、一人一人の子どもたちの課題を教員のみで対応・解決していくのは大変。家庭で落ち着いて学習することが厳しい家庭もあることから、学校だけでなく、PTA・教育機関・福祉機関など社会全体で子どもたちを支えていく時期に来ているのではないか。」「学校評価や学校運営協議会を、子どもたちを社会総がかりで力を合わせて育てる仕組みとして、今後もその質を高めていかねばならない。」等の意見をいただいた。

【第三者評価の実施校】

以下の2中学校区（久世中学校区及び嵯峨中学校区）において、校長・地域連携担当教員・学校運営協議会委員・児童生徒ヒアリング、授業観察等を実施。

<久世中学校区>

(ア) 久世西小学校において実施

- ・日 時 平成28年2月8日（月）9：00～12：00
- ・委 員 小松委員長（リーダー）、加藤委員、辻委員、岸田委員、村田委員、中東委員
- ・内 容 3校（大藪小学校、久世西小学校、久世中学校）校長が参加しての久世中学校区の概要説明
久世西小学校の取組

(イ) 大藪小学校において実施

- ・日 時 平成28年2月8日(月) 13:30~16:00
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 加藤委員, 辻委員, 岸田委員, 村田委員, 中東委員
- ・内 容 大藪小学校の取組

(ウ) 久世中学校において実施

- ・日 時 平成28年2月25日(木) 9:00~12:30
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 加藤委員, 辻委員, 堀内委員, 岸田委員, 村田委員, 中東委員
- ・内 容 久世中学校の取組
3校合同協議(大藪小学校, 久世西小学校, 久世中学校)

<嵯峨中学校区>

(ア) 嵐山小学校において実施

- ・日 時 平成28年2月2日(火) 9:00~12:00
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 森委員, 島本委員
- ・内 容 4校(嵯峨小学校, 広沢小学校, 嵐山小学校, 嵯峨中学校)校長が参加しての嵯峨中学校区の概要説明
嵐山小学校の取組

(イ) 広沢小学校において実施

- ・日 時 平成28年2月2日(火) 13:30~16:00
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 森委員, 島本委員
- ・内 容 広沢小学校の取組

(ウ) 嵯峨小学校において実施

- ・日 時 平成28年3月1日(火) 9:00~11:30
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 岩佐委員, 西川委員, 森委員, 高橋委員, 島本委員
- ・内 容 嵯峨小学校の取組

(エ) 嵯峨中学校において実施

- ・日 時 平成28年3月1日(火) 13:00~16:30
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 岩佐委員, 西川委員, 森委員, 高橋委員, 島本委員
- ・内 容 嵯峨中学校の取組
4校合同協議(嵯峨小学校, 広沢小学校, 嵐山小学校, 嵯峨中学校)

③ 第2回会議

- ・日 時 平成28年3月15日(火) 15:00~
- ・会 場 京都市総合教育センター2階 第4研修室
- ・議 題 中学校区を対象とした検証委員会による学校訪問について
今後の検証委員会の方向性等について
- ・議事概要
(中学校区を対象とした検証委員会による学校訪問について)

<久世中学校区>

- 久世中学校区について、「久世はひとつ」という言葉に3校の大変なエネルギーを感じた。3校の校長がよく連携し、ピア・サポート（子どもたちの社会性やそのベースとなる自尊感情・自己有用感を育むために実施する異学年との交流活動等）などさまざまな取組において小中連携や小小連携を意識し、深めていることもよくわかった。
- 久世スタンダード Ver. 2（3校で作成した児童生徒・保護者・教職員の行動指針）では、子どもたちに具体的に3校全体で取り組む事項を示し、自己肯定感や自己有用感を上げることを意識していると感じた。さらに保護者・教職員・地域等へこの指針を浸透させることができれば、今以上に地域一体となって子どもたちを育む環境が充実するのではないかと感じた。
- 3校で1つの学校運営協議会を設置しており、子どもたちを地域全体であたたかく見守り支援する仕組みは整っているため、今後どのようにして支援の輪を一層広げていくかが肝要であると感じた。
- 中学校区を単位として学校訪問をすることによって、同じ中学校区内で学校や発達段階の異なる子どもたちが、どのように育まれているかを見ることができた。また、子どもたちの課題も、地域で共通しているもの、学校や発達段階により異なるものがある。共通している課題の解決にあたり、学校評価も活用しながら小中学校が一丸となって対応していくことが大切ではないか。

<嵯峨中学校区>

- 嵯峨中学校区では、中学校・3小学校とも連携交流しながら協力して学校運営をしているように感じた。授業ではアクティブ・ラーニングも取り入れており、クラスに活気が見られた。また、日本有数の観光地ゆえにそれらにまつわる地域行事も多いが、それらを学校教育活動に取り入れながら校長が上手く学校経営をしていると感じた。
- 「嵯峨中パレード」（地域の方々と協働し、嵯峨嵐山地域及び嵯峨中学校の環境学習の取組等を紹介するパレード、年1回実施）は子どもたちの力を伸ばすうえで素晴らしい行事であり取組であると思うが、「なぜやるのか」「なぜ始まったのか」等、学校教育活動として取り組むねらいを毎年保護者や子どもたちに伝えていくことが大切ではないか。
- 「京都嵯峨学園」という1中3小による小中合同の学校運営協議会が、1中3小をチームとして構造化していく拠点となるよう、保護者や地域の方々への周知も今後さらに充実させていくとよい。また、学校評価の評価項目において4校共通項目を活用する等、中学校区としての子どもの課題解決に向けた取組を、学校評価という仕組みを活用しながら推進していただきたい。

（今後の検証委員会の方向性等について）

- 検証委員会は、京都市全体の学校評価システムを検証するとともに、訪問した学校を見て発見した課題を伝えることも大切な役割の一つである。学識経験者・保護者等、それぞれの立場を活かした発言をできているか、今一度自分自身を振り返ることも大切である。
- 小中一貫教育が具体的に学校現場で実践されていることにより、今回、中学校区を軸として学校訪問ができたことに繋がった。今後さらに発展するためにも、小中一貫教育自体の検証が必要になってきていると感じた。
- 京都市では平成23年度から全中学校区で小中一貫教育を実施しているが、成果の出た取組を他の中学校区へ繋ぎ、京都市総体として小中一貫教育の更なる充実を図っていくことが大切ではないか。
- 小中一貫教育やアクティブ・ラーニング等、京都市では国の動きと並行あるいは先行して様々な取組を進めていると感じる。次期学習指導要領の改訂では、学びの質をどのように向上させるかが肝要とされている。授業力・カリキュラムマネジメント力・指導計画の編

成力を上げておくことが、次期学習指導要領に対応するためのポイントとなる。京都市の教育の重点となる事項について、今まで学校現場で取り組まれてきたことを今後もしっかりと続け、また学校評価においても重要な観点として捉えてもらいたい。

- 1つの学校内で授業改善をしっかりとやったうえで、同地域の小中学校同士が小中一貫教育を進める。そして、地域の方々にも義務教育9年間を通して子どもたちを支援いただくために、小中合同の学校運営協議会を設けて学校評価も充実させ、地域ぐるみで豊かな学びと育ちを支えていただくという流れを踏まえた学校経営を推進することが望ましい。
- 国において「学校評価」制度ができて10年となる。今こそ学校評価の質を一層向上させていかなければならない。学校現場・教員の多忙化は京都市はもとより全国的にも厳しい状況であり、学校以外の立場からも子どもたちの学びと育ちを支える場として、学校・家庭・地域の連携は大切である。本検証委員会としても、今後とも京都市の学校評価や学校運営協議会を、子どもたちを社会総がかりで育てる仕組みとして高めていきたい。

(5) 学校評価支援システムの充実

ア 概要

平成26年度に導入した「学校評価支援システム」は、本市の新たな情報環境や情報機器に対応し、かつ機能面でも、アンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステムメニューに統合し、分析結果のグラフをより見やすくする等の改善を加えた本市独自のシステムである。

平成27年度には、学校からの要望を踏まえ、アンケート作成や集計をより効率的に、結果分析をより多面的に実施できる「アンケート結果の学年・組での絞り込み機能」や「他校と共通のアンケートをとれる機能」等の機能を追加し、学校評価におけるアンケートの作成・集計・分析・データ管理を容易にできるよう改善した。

イ 活用状況

学校評価支援システムを導入している学校は、全小中学校の約8割となる190校となった。そのうち、学校評価支援システムを活用した「重要度」と「実現度」との両方を聞くニーズ調査型アンケートを90校で実施している。本市独自システムの導入に伴い、学校評価支援システムを活用する学校が増加していることから、ニーズ調査型アンケートによる調査・分析を効果的な学校改善に繋げることができるよう、今後も丁寧な運用支援を行っていきたい。

【学校評価支援システムを活用してアンケートを実施している学校の状況】

アンケートの実施状況	小学校		中学校		合計	
	実施校数	実施校数 /全小学校数	実施校数	実施校数 /全中学校数	実施校数	実施校数 /全小中学校数
「重要度」と「実現度」を聞く ニーズ調査型アンケートの実施	61	36.7%	29	39.7%	90	37.7%
「実現度」のみを聞く アンケートの実施	67	40.4%	33	45.2%	100	41.8%
合計	128	77.1%	62	84.9%	190	79.5%

なお、学校評価支援システムを活用せずにアンケートを実施している学校においても、約8割の学校が評価の分析や課題等について簡潔に記述したり、円グラフや棒グラフを使ってわかりやすく結果を示すなど工夫をしている。

(参考)

1. 「重要度」と「実現度」を聞く「ニーズ調査型」アンケートの例

◆挨拶について

以下の項目について、「どのくらい重要だと思うか(重要度)」と、「実現できていると思うか(実現度)」をそれぞれお答えください。

		重要度				実現度			
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1	自ら進んで挨拶をすること	0	0	0	0	0	0	0	0
2	相手の気持ちを思いやって接すること	0	0	0	0	0	0	0	0

2. ニーズ調査型（魅力・課題発見型）分析の例

学校評価支援システムでは、アンケートの中で各項目の重要度と実現度を同時に聞くことにより、学校の魅力・課題を自動的に分析することができる。

分析結果例

質問項目	▲ 重要度 ▼	▲ 実現度 ▼	▲ ニーズ度 ▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	7	1.1	48.3
子どもが丈夫な体をつくろうとすること	3	1	21
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	4.9	5	14.7
子どもが他人を思いやり、親切にすること	7	5	21
子どもが楽しく学校に通っていること	7	5	21
子どもが将来の夢や希望について考えること	7	1.1	48.3
子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	2.9	2.9	14.8
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	7	4.9	9
学校が、いじめのない学校づくりに取り組んでいること	7	7	7
学校が、人権を大切にされた教育活動を行うこと	7	7	7
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	5.7	3.5	25.7
学校だより、学校ホームページで学校の様子を伝えること	6.9	3.4	31.7

■は、重要度が高い項目

■は重要度が高く、実現度が低い項目。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。

■は、実現度が低い項目

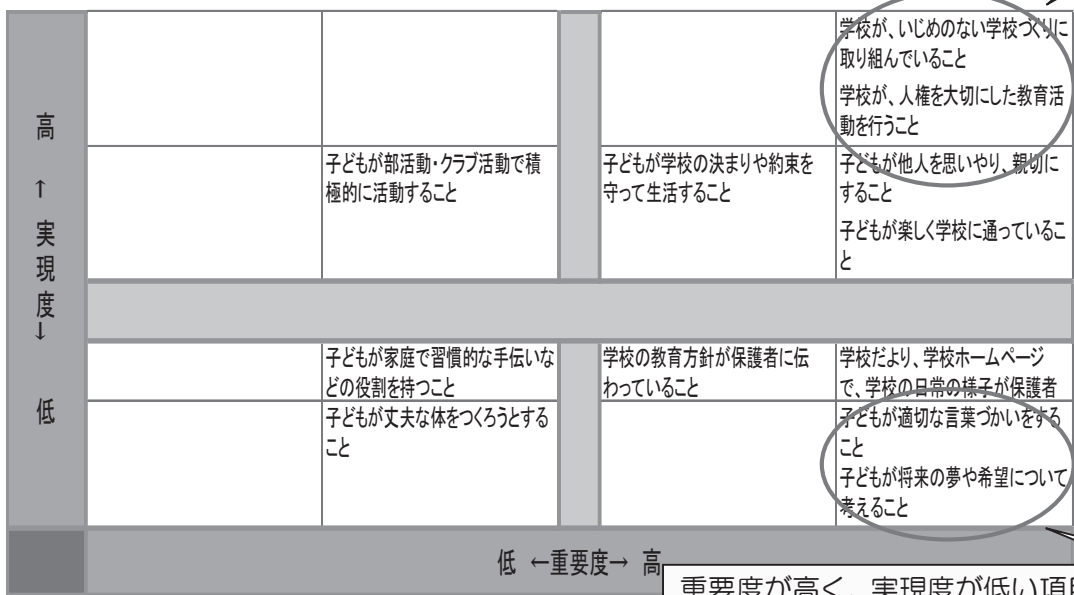
重要度も実現度も高い項目

自校の魅力

重要度と実現度の関係を相対的に捉えることで、学校の魅力、課題を視覚的にとらえることができ、焦点化した分析が可能になります。

また、教職員と保護者に同様の質問項目を設定することで両者の認識のずれを確認できます。

自校の課題



重要度が高く、実現度が低い項目

(6) 文部科学省委託事業「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」の実施 (平成26年度～2年指定)

本市の学校運営協議会は、学校運営の基本方針の承認や学校教育活動に対する協議を行うだけでなく、具体的な学校支援活動を行うボランティア組織である「企画推進委員会」の取組と一体的に運営しており、それぞれの地域の特性を活かしながら様々な活動が展開されている。

このような地域ぐるみの教育を基盤としながら、義務教育9年間の子どもたちの学びと育ちを支援する体制を整え、かつ、学校・家庭・地域が協働性を高め自律的に教育活動を充実させていくことができる学校評価や学校運営協議会の在り方について研究を進めていくため、平成26年度から2年間にわたり文部科学省委託事業「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」を受託した。

学校評価や各種学力調査の結果から見えてきた成果・課題とそれに対する学校の対応について、小中合同の学校運営協議会で検証を行い、学校と学校運営協議会が一体となって実施していく協働体制の構築を目指した。

<研究指定>

- ① 勸修中学校区（勸修小学校、小野小学校、勸修中学校）
- ② 久世中学校区（大藪小学校、久世西小学校、久世中学校）
- ③ 双ヶ丘中学校区（御室小学校、宇多野小学校、花園小学校、双ヶ丘中学校）

3つの中学校区は、平成26年度の研究開始時点でそれぞれ①「学校運営協議会未設置校を含んだ中学校区」（勸修中学校区）、②「既に小中合同の学校運営協議会を設置している中学校区」（久世中学校区）、③「全校で学校運営協議会を設置している中学校区」（双ヶ丘中学校区）と状況が異なっていたが、いずれにおいても従来からの学校の取組や地域からの支援を再構築しながら、新たな協働体制の整備・充実に取り組んだ。その結果、平成27年度には3つの中学校区全てで小中合同の学校運営協議会が設置され、義務教育9年間の小中の縦の繋がりと、学校運営協議会を核とした地域ぐるみの教育の横の繋がりが共に深まっており、小中合同の学校運営協議会の設置に向け他の中学校区においてもそれぞれの学校運営協議会の設置状況に応じて参考となる取組が進められている。

また、学校評価結果や各種学力調査結果を小中合同の学校運営協議会等で共有・検証を行っていき取組において、地域や保護者の方々が主体的に協議し具体的な支援に繋がりやすい項目（家庭学習、読書、あいさつ、規範意識等）を抽出し、図やグラフを用いてわかりやすく提示するとともに、中学校区内の学校間で共通する子どもたちの課題が明らかになるよう説明を組み立てることによって、意見交流がより活発かつ効果的になることがわかった。加えて、本研究を進める中で、各校区の状況に応じ、児童生徒の取組を小中合同の学校運営協議会が支えたり、学校同士の連携がより深まる等、自律的な学校改善のシステムの基礎が構築されただけでなく、小中一貫教育の推進も見られた。今後は、本研究の成果を全市へ普及させ、各中学校区における自律的・組織的な学校運営の構築に繋げるとともに、小中一貫教育及び学校評価の更なる充実に活かしていきたい。（久世西小学校の取組事例については、21ページ参照）

(7) 学校評価実施報告書の様式の改善

平成27年度の検証委員会において出された意見を踏まえ、毎年度教育委員会で定める「学校教育の重点」に記載の「学校教育において重視する視点」と評価項目・具体的な取組・その結果・分析・改善策の関係をわかりやすい形に改善し、平成28年度報告から使用している。

（変更後の様式は16ページ参照）

(変更前の様式)

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名()

1 平成27年度 重点評価項目

2 1回目評価

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果	自己評価		学校関係者評価	
					評価日	評価者・組織	評価日	評価者(いずれかに○)
					分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価による 意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな 学力				⇒		⇒	
2	豊かな 心				⇒		⇒	
3	健やかな 体				⇒		⇒	
4	独自の 取組				⇒		⇒	

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名()

3 2回目評価

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果	自己評価		学校関係者評価	
					評価日	評価者・組織	評価日	評価者(いずれかに○)
					分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価による 意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな 学力				⇒		⇒	
2	豊かな 心				⇒		⇒	
3	健やかな 体				⇒		⇒	
4	独自の 取組				⇒		⇒	

4 総括・次年度の課題

(変更後の様式)

平成28年度「学校教育の重点」に記載の「学校教育において重視する視点」

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名()

1 1回目評価				自己評価			学校関係者評価	
・個別評価項目の設定及び各項目にわたりを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理			評価日	評価者
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 目標の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策	評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
	授業改善							
確かな 学力	家庭学習の習慣化							
	「公共の精神」に基づく態度の育成							
豊かな 心	自他を大切に する態度の育成							
健やかな 体								
独自の 項目								

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名()

2 2回目評価				自己評価			学校関係者評価	
・個別評価項目の設定及び各項目にわたりを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理			評価日	評価者
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策	評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
	授業改善							
確かな 学力	家庭学習の習慣化							
	「公共の精神」に基づく態度の育成							
豊かな 心	自他を大切に する態度の育成							
健やかな 体								
独自の 項目								

3 総括・次年度の課題

4 学校評価関係年表

年月	京都市	国
H10年9月		○中教審答申『今後の地方教育行政のあり方について』 「…各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること…」
H12	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評議員の設置を明記）	
H12年12月		○教育改革国民会議報告『教育を変える17の提案』 「…地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支えあう社会と学校を目指すべき…」 「…各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる…」 ○教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について』 「…各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である…」 「…自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてそのあり方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないよう、十分留意する必要がある…」
H13年4月	○学校評議員を全校・園に設置	
H13年8月	○京都市新世紀教育改革推進プロジェクト「学校評価部会」発足（～平成15年2月）	
H13年9月	○京都市学校評価実践研究協力校7校を指定	
H14年2月		○中教審答申『今後の教員免許制度のあり方について』 「…学校と学校外との双方向のコミュニケーションの成立を確実にするため、学校の自己点検・自己評価の実施とその結果を保護者や地域住民等に公表する学校評価システムを早期に確立することを提言する…」
H14年3月		○小・中学校設置基準 （自己評価の実施と結果の公表が努力義務化。保護者等に対する情報提供を積極的に行うよう規定）
H14年4月	○京都市では学校評価を全校種40校で実施	
H14年11月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」で国が御所南小を指定。同事業の一環として、京都市が独自に高倉小を指定	
H15年3月	○地域教育専門主事室「今求められる学校づくりのために」(実践事例集・ガイドライン)発行	

年月	京都市	国
H15年4月	○学校評価を全校・園で実施	
H15年9月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の一環として、京都市が独自に京都御池中を指定。すでに指定を受けている御所南小・高倉小と共に実践研究を進める	
H16年3月	○評価結果を全校・園で公表	
H16年11月	○京都市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定 ○御所南小・高倉小・京都御池中に学校運営協議会を設置	
H17年5月	○学校運営協議会5校設置	
H17年6月		○閣議決定『経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005』（義務教育における外部評価の実施と結果の公表のためのガイドライン策定が掲げられる） ○中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』（大綱的な学校評価ガイドラインの策定が必要と提起）
H17年10月		○中教審答申『義務教育の構造改革』 「…教育の結果の検証を国の責任で行う。具体的施策として全国学力調査と学校評価システムをあげた…「教育の質的向上に寄与する学校評価」という新たな捉え方」
H18年3月	○学校運営協議会17校設置	○文部科学大臣決定『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』（京都市などの事例を基に国の学校評価ガイドライン発表）
H18	○児童生徒によるアンケート評価を全校実施	
H18年12月	○学校運営協議会に関する専門委員会内に学校評価専門部会（平成19年に学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会に改組）を設置	○「規制改革・民間開放推進に関する第3次答申」（学校教育制度の評価確立が求められる） ○教育基本法改正
H19年1月		○教育再生会議第1次報告『社会総がかりで教育再生を』（保護者等による実効ある外部評価の導入とその結果の公表について提言）
H19年3月	○京都市教育委員会「学校評価実践協力校の実践報告集」発行 ○学校運営協議会60校設置	○初等中等教育局長通知 「…学校評価制度等に係る運用上の工夫等について」（個人情報に配慮した上でホームページ等で評価結果を公表するよう促している） ○中教審答申『教育基本法の改正を受けて緊急に必要な教育制度の改正について』 「…情報提供に関する学校の責務の明確化は、公の性質を有する学校が、自らの説明責任を果たすためにも重要…」 ○文部科学省通知 「…個人情報に配慮した上で、評価結果をホームページ等で公表することを推進する…」

年月	京都市	国
H19	○評価結果のHP公表の徹底	
H19年4月	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正(学校評価を規則にも明記) ○学校評価ガイドラインの改訂	
H19年6月	○「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」制定(学校教育活動についても条例の対象とした。全国初)	○学校教育法一部改正
H19年12月	○京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」第1回開催	○学校教育法施行規則一部改正(学校評価を生かした学校改善及び教育水準の向上、保護者・地域住民等への教育活動や学校運営に関する情報の積極的な公開の規定を盛り込む)
H20年1月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂(19年6月の法改正を受けての改訂)
H21年3月	○学校運営協議会 142校設置	
H21年6月	○京都市学校評価ガイドライン【第3版】策定	
H22年3月	○学校運営協議会 163校設置	
H22年7月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂(第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H23年3月	○学校運営協議会 171校設置	
H23年11月		○文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン』改訂(第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H24年3月	○学校運営協議会 184校設置(総合支援学校全校設置)	
H25年3月	○学校運営協議会 192校設置	
H26年3月	○学校運営協議会 210校設置	
H26年4月	○文部科学省委託事業「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」受託(～27年度)	
H27年3月	○学校運営協議会 229校設置(小学校全校設置)	○文部科学省「コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議」報告書公表(コミュニティ・スクールの拡大・充実のための推進方策や今後の学校運営協議会制度等の在り方等について提言)
H27年12月		○中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(全ての公立学校がコミュニティ・スクールを目指すべきであり、教育委員会は積極的にコミュニティ・スクールの推進に努めていくよう制度的位置付けを検討すべきである)
H28年3月	○学校運営協議会 233校設置	○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂(平成28年4月の義務教育学校並びに小中一貫型小学校及び小中一貫型中学校制度化を踏まえ、小中一貫教育を実施する学校における学校評価の留意点を反映)
H28年4月	○文部科学省委託事業「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業(小中一貫教育等に対応した学校評価の取組研究)」受託	

Ⅱ 学校での取組事例

学校評価のねらい

開かれた学校づくりを目指し、学校の保護者・地域への説明責任を果たす。また、取り組んだことの結果や責任を明確にし、学校改革に向けた足がかりとする。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4	学校経営案の具体化 教育指導計画書の作成		学校だより（教育方針の発信） H26後期学校評価をHP に再公表
	5			
	6	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討 学校評価委員会年間計画作成と共通理解	第1回学校運営協議会 学校教育方針 評価年間計画の説明	評価年間計画をHPに公表
	7			
	8			
	9	第1回保護者・児童・教職員アンケート 集計・分析・自己評価・ 改善策の検討		
	10	改善策の再検討	第2回学校運営協議会 理事による評価の実施 （学校関係者評価）	
	11			学校だより11月号及びHP 結果考察・改善策を公表
	12			
	1			
	2	第2回保護者・児童・教職員アンケート 集計・分析・自己評価 改善策の検討	第3回学校運営協議会 理事による評価の実施 （学校関係者評価） 次年度の方向性の検討	
	3	次年度方針の共通理解		学校だより3月号及びHP 結果考察・改善策を公表

平成27年度

久世西小学校 学校経営構想



久世3校小中一貫教育目標

「自分で考えて行動する子どもの育成」

- 目指す子ども像
- (1) たくさん読書をする子
 - (2) 元気にあいさつができる子
 - (3) 自分で家庭学習にがんばれる子



久世西小学校 学校教育目標

「目標に向かって、進んで学び、
生き生きと活動する子どもの育成」

～意欲的に、主体的に、友だちとともに～

目指す子ども像

目標に向かってがんばる子
最後まで聞き、自分で考え、進んで発表する子
友だちとともに、生き生きと活動する子

目指す学校像

- 子どもが元気に、楽しく過ごす学校
- 保護者・地域に信頼され、力を合わせて取組を進める学校

目指す教職員像

- すべての子どもが「わかる・楽しい授業づくり」を目指す教職員
- 一人一人の子どもが楽しく安心して過ごせる、温かい学校・学級づくりに取り組む教職員

具体的な教育実践

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

- ① 久世中学校・大藪小学校と小中一貫教育を推進する。
 - ・学校運営協議会と連携し、義務教育9年間を見通した教育活動を充実させる。
(自律的・組織的な学校運営の体制構築に向けた調査研究の研究指定校)
 - ・英語教育に取り組み、思考力やコミュニケーション力を向上させる。
(京都市英語強化拠点校事業の研究指定校)
- ② すべての児童に、基礎基本的な知識・技能を習得させるため、指導を工夫する。
 - ・帯時間の充実(読書・音読・英語活動)
 - ・個に応じた指導の工夫
- ③ 学習活動の基本となる姿勢(学びの約束やルール)を身につけ、意欲的に学ぶ集団作りに取り組む。(温かい風土・支持的雰囲気の学級づくり)
- ④ すべての子どもが「わかる喜びと学ぶ楽しさ」を実感できる、授業をめざす。
 - ・「**学習課題(めあて)**」を提示し、**課題を追求する活動を経て「まとめ(振り返り)」を行う。**
- ⑤ 教師の専門性を生かした協力体制を充実させる。
 - ・専科指導
5・6年生の理科 4・5・6年生の書写
 - ・T T (ティーム ティーチング) 指導
3・4年生の算数 4・5・6年生の音楽
 - ・教科担任制
- ⑥ 英語・特別活動の話合い活動を校内研究の柱として、各教科・領域における言語活動(話合い活動)の充実を図る。
- ⑦ 図書館教育の推進と読書活動の充実を図る。
 - ・朝読書の取組の充実
 - ・休み時間の図書室解放(保護者・地域の図書ボランティアの方々の支援と連携)
 - ・久世ふれあい図書館との連携
- ⑧ LD等支援の必要な子どもの学力向上を目指す。
 - ・今年度 LD等通級指導教室の設置(子どもの困りに応じた内容の学習)

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

- ① 相手意識を持った子どもの育成や支え合い高め合う集団作りをめざし、縦割り活動やピア・サポートなどの集団活動を活性化させる。
 - ・児童集会(全校合唱・縦割り集会等)を充実させる。
 - ・ピア・サポートなどの交流教育を進める。
 - ・「なかまの日」の学習を通して、互いを尊重し、共に成長し合う教育を推進する。

- ② 道徳教育の充実により，共によりよく生きようとする態度を育てる。
 - ③ 学校生活における規範意識の育成を図る。
 - ・人のつながりを大切にする取組を推進する。(あいさつの徹底)
 - ・学校のような集団生活では、「きまりや学習規律を守る。」が大切であることを理解させ，行動できるよう指導する。
 - ・「社会で許されないことは，学校でも許されない。」指導を徹底する。
 - ・「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を進め，「いじめは絶対に許されない人権侵害である」ことを理解させ，人権意識を高める取組を進める。
 - ④ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの専門職との連携やクラスマネージメントシートを活用するなど多角的な視点を持って指導する。
- (3) 「健やかな体」の育成に向けて
- ① 運動やスポーツの実践を通して運動することの楽しさや喜び，達成感・成就感等を味わう。
 - ② 「早寝・早起き・朝ごはん」等望ましい生活習慣を自ら実践できる力を育てる取組を進める。
 - ③ 和やかな雰囲気の中で，みんなと食べる喜びや楽しさを味わい，進んで食べようとする気持ちを育てる。
 - ④ 安心で安全な学校づくりをめざし，人と人のつながりを大切にした安全教育を推進する。
 - ⑤ 防災教育・防災管理を充実させる。
 - ・避難訓練，引き渡し訓練の実施
 - ・危機管理マニュアルに基づく研修や訓練の実施

久世西小学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 本校の教育活動の改善，教職員の指導力の向上を目指し，よりよい学校運営・学校改革を行うために実施する。
- 学校・家庭・地域が教育課題や教育活動の成果を共有し，学校評価を通じて地域との連携を進める。

2 重点評価項目

(1) 確かな学力

- ①主体的に考え，表現し，伝え合える能力の育成
- ②読書の習慣化
- ③家庭学習の習慣化

(2) 豊かな心

- ①あいさつの徹底
- ②自己有用感の育成
- ③協働活動を通じた豊かな心の育成

(3) 健やかな体

- ①基本的生活習慣の確立
- ②食育の推進

(4) 独自の取組

- ①小中一貫教育の推進
- ②情報発信の充実

3 評価手法

- ・教職員，保護者及び児童に対するアンケート調査を実施している。項目については久世中学校区（大藪小学校，久世西小学校，久世中学校）で協議し，共通項目を設定している。また，全国学力・学習状況調査，プレジョイントプログラム・ジョイントプログラムの結果や日々の学校生活の様子も参考にしている。
- ・国立教育政策研究所と連携して実施している社会変容調査（第4学年以上：年に3回）の結果も参考にしている。

4 アンケート結果等による分析

(1) 規範意識の向上について

- ・児童会・中学校生徒会・教職員・PTAが連携して組織的な挨拶運動に取り組むことができた。また，その取組が，低学年の子どもたちの自主的な挨拶運動に繋がった。「卒業するまで続ける。」と言い，毎朝校門で挨拶運動をしている複数名の3年生の子どもたちの姿に，取組の成果と子どもたちの可能性を感じる。
- ・「間違いを恐れない。間違った人を笑わない。」を行動目標に掲げて取組を進めてきた。ピア・サポート（子どもたちの社会性やそのベースとなる自尊感情・自己有用感を育むために実施する異学年との交流活動等）に加え，縦割り活動にも取り組み，6年生にリーダーとしての自覚と行動が芽生え，また，学校全体が温かい雰囲気変わった。朝会の話を書く様子や態度，児童集会での全校合唱の歌声等にもその変化は表れている。
- ・しかしながら，アンケート調査において「学校・学級のきまりや約束を守っている」と回答している児童は，約8割と昨年度とあまり変化がなく，子どもたちの態度や取

組の成長や充実を、見守っている教職員や保護者などの大人が認め、応援する声掛けの重要性を改めて感じた。

(2) 学習意欲を高める授業づくりと、家庭学習の充実について

「外国語活動・特別活動」を柱とした校内研究が、落ち着きのある学校・学校風土を作り、子どもたちの積極的なコミュニケーションや学習意欲に繋がった。学年を中心に進めた日々の授業の工夫・改善、とりわけ「単元のゴール」を明確にした主体性を高める授業づくりが、学力の向上として各種学力調査の結果から表れている。

しかし、「家庭学習の習慣化」及び「読書の習慣化」が課題である。素直さと人との関わりの希薄さを感じる本校の子どもたちには、「やらされている」から「自分からやろう」とする気持ちの変化こそが、「習慣化」への大きな鍵である。

家庭学習については、授業に活きる学習や自らが意欲的に取り組める自主学習など、学校や学年で方向性を持って取組を進めている。また読書については、担任と図書支援員との連携や保護者地域の図書ボランティアの方々による朝の開館などの取組が、子どもたちの朝読書の定着や図書室の利用の増加としてその成果が表れている。しかし、「進んで本を読んでいるか」という項目については、まだ実現度が高いとは言えない。「読書の習慣化」のためには、「親子読書」など家庭との連携が大切であると考えている。

5 自己評価

学校評価実施報告書（30，31ページ）を参照

6 学校関係者評価

<確かな学力>の分野について

- ・これまでの学校の取組の成果が各種学力調査で表れてきている。しかし、学校での学習だけでなく、保護者に対しても、家庭学習を含めた「学習の大切さ」をさらに啓発することが大切である。
- ・「授業がよくわかる」「学校が楽しい」については、アンケートでの実現度が高い。子どもたちは、学習が楽しいと感じれば学習意欲を高めるため、「やらされている宿題」から「やろうとする宿題」にするための環境づくりが必要である。
- ・学力が上がった要因を分析し、何を続けたことがどのような結果に繋がったのかという視点を持つことが大切である。

<豊かな心>の分野について

- ・本校の子どもたちは自己肯定感が必ずしも高いとは言えず、これは体験の不足と人との関わりの希薄さにその一因があると考え。今後、子どもたちの自己肯定感の向上に向け、子どもたちががんばっていることを周りの大人が的確に認め、褒めるように意識していくべきである。
- ・また、自己有用感に関しても、学校行事など特別な時だけ褒めていても、さらなる向上は見込めない。あらゆる教育活動を通して子どもたちが「自主的」に取り組んだときに、結果に関わらず、認め、褒めることが必要である。

<健やかな体>の分野について

- ・基本的な生活習慣の確立は、子どもたちだけの問題ではなく、保護者の姿勢も問われる。

個別対応はもとより、保護者懇談会や家庭教育学級を通して啓発をしていくことが重要である。

- ・子どもたちを育てる場として、部活動の充実は欠かせない。

＜独自の取組（小中一貫教育・情報発信）＞の分野について

- ・学力が上がった要因を3校で分析・交流し、よいところを学び合う連携を進めることが望ましい。また、結果に一喜一憂するのではなく、何を続けたことがどのような結果に繋がったのかという視点を大切に丁寧な分析を行ってほしい。
- ・「久世スタンダード Ver.2」の内容を具現化するには、段階を踏んで指導していく必要がある。連携の枠組はできているが具体的取組はこれからの課題であり、教職員のみならず、保護者や地域に対しても理解を促していくことが望ましい。

7 総括・次年度に向けた課題等

- ・学校評価の項目について、久世中学校区で「学校教育の重点」「久世スタンダード Ver.2」との整合性を踏まえ、再検討を行う。
- ・学校評価を形骸化させないため、分析の結果を教職員、児童、保護者と共有し、課題については具体策を講じる。
- ・学校評価の結果を研修などで協議し、学校運営に活かすという意識の定着を図る。

学校評価 アンケート集計結果（平成27年7月実施）

色のついたセルについて

重要度…平均よりポイントが高く、大切と思われるもの（7点満点で4点が普通）
 実現度…平均よりポイントが低く、できていないと思われるもの（7点満点で4点が普通）
 ニーズ度…2.5ポイント以上の、大切と思われるがあまり出来ていないもの（4.9点満点）

＜児童版＞

質問文	実現度		
	1. 2年	3. 4年	5. 6年
1年間で100冊読書をめざし、進んで本を読むこと	5.1	4.1	4.1
授業中、しっかりと話が聞けること	6.2	5.3	5.2
授業中、進んで発表すること	5.9	4.8	4.3
授業中、勉強がよくわかること	6.3	5.7	5.4
進んで「おはよう」などの挨拶や「ありがとう」が言えること	6.0	5.4	5.6
学級や学校の生活が楽しいこと	6.5	5.6	5.7
学級や学校のきまりや約束を守ること	6.2	5.6	5.3
相手の気持ちを考え、考えて行動すること	6.5	5.2	5.5
早寝・早起き・朝ご飯など規則正しい生活をする事	5.9	5.2	5.1
8時間以上睡眠をとること	5.9	5.7	5.4
毎日決まった時間、家で家庭学習（宿題）をすること	6.5	4.7	4.5
学校の当番や係活動をしつかりとすること	6.6	6.0	5.8
学校であったことを家で話すこと	5.9	5.2	5.5
家の人から努力したときや良い行いをしたときにほめられること	5.9	5.3	5.4
PTAや地域行事に進んで参加すること	4.5	3.8	4.1

＜保護者・教職員版＞

質問文	保護者		教職員			
	重要度	実現度	重要度	実現度		
子どもにとって授業がよくわかること	6.9	5.0	20.8	7.0	4.5	24.2
子どもにとって学年相応（15分×学年）の家庭学習の習慣が身につけていること	6.3	4.4	22.7	6.7	4.5	23.2
子どもが学習に向かえるように工夫してはたらきかけること	6.3	4.2	24.2	7.0	4.9	21.5
子どもに読書の習慣が身につけていること	6.2	4.0	25.1	6.5	4.4	23.6
子どもがあいさつをしつかりとと言えること	6.9	4.7	22.5	7.0	4.1	27.5
子どもが毎日楽しく学校に通うこと	6.9	5.8	15.2	7.0	4.7	23.2
子どもが温かい仲間意識を持ち、思いやりや親切にする心を育むこと	6.9	5.3	18.6	7.0	4.7	23.2
子どもがきまりや約束を守って生活すること	6.8	4.9	21.1	6.9	5.1	20.2
子どもが早寝・早起き・朝ご飯の習慣を身につけていること	6.8	5.2	18.7	6.9	4.5	24.0
子どもに8～10時間程度睡眠をとらせること	6.7	5.7	15.7	6.9	4.1	27.2
学校が教育方針や教育活動の状況をわかりやすく伝えること	6.1	5.1	18.0	6.8	4.5	24.0
PTA活動に参加すること	4.9	3.7	21.2	6.3	3.8	26.7
学校行事や懇談会に参加すること、また働きかけること	5.8	4.8	18.3	6.4	3.9	26.0
子どもが進んでお手伝いや当番活動をする事	6.2	4.3	23.4	7.0	5.1	20.5
子どもが努力したときや良い行いをしたときにほめること	6.8	5.2	19.4	7.0	5.5	17.8

アンケート結果より

＜児童＞

- 「学校生活が楽しい」、「当番や係活動をしつかりとすること」については多くの児童が比較的高い数値。
- ▲「進んで本を読む」、「進んで発表をする」、「PTAや地域行事に進んで参加する」は低い数値。
- 全体的に中学年で数値が下がる傾向（特に学習に対する意欲が大きくなる傾向）。
- あいさつは子どもたちは概ね出来ていると思っいる。（全体的に保護者や教職員の評価より数値が高い傾向）

＜保護者＞

- 「昨年度の結果に比べると全体的に重要度が高くなり、子育てや教育に対する関心が高まっている。
- 「よい行いをしたときにほめる」の実現度が昨年度より1ポイント近く上回っている。
- ▲「あいさつ」の実現度が昨年度より下回っており、自由記述欄にも「全体的にできていない」「意識が低い」といったあいさつについての記述が多くあった。
- 家庭学習・読書・お手伝い等、自ら進んで行う項目の実現度が低い。

＜教職員＞

- 「重要度・実現度ともどの項目も昨年度の数値を上回っており、子どもたちが落ち着いて学校生活に取り組んでいる様子が見取れる。
- 「よい行いをしたときにほめる」「決まりを守って生活する」の実現度が昨年度より1ポイント近く上回っている。
- ▲「保護者や地域への働きかけがまだまだ弱い」。
- 授業力の向上や家庭学習への働きかけ・徹底が教職員に必要。
- あいさつは昨年度に比べると上上がっているが、なかなか定着しない。

＜対策＞

- 「あいさつ」については子どもも教職員・PTAによるあいさつ運動など様々な取り組みを行っている。今後も教職員や保護者・地域が目標を共通理解し、子どもと共に一体となって取り組んでいく必要がある。
- 学力向上はまずは教師が「楽しい授業」の構築に努める。家庭学習については、自ら学習に向かう日々の習慣化が大切で、学校と保護者の連携をより大切にしていきたい。
- 保護者と教職員との重要度・実現度に差が出ないよう、学校側はおたよりやホームページなどで積極的な情報発信を行ったり、保護者との対話を心がけたい。

学校評価 アンケート集計結果(平成27年12月実施)

表の見方について

重要度…7点満点で4点が普通。数字が高ければ重要であると考えられるもの。
 実現度…7点満点で4点が普通。数字が高ければできていてと評価できるもの。
 ニーズ度…4～9点満点。数字が高ければ重要度と実現度の差が大きく、取組の見直しが必要とされるもの。
 二重下線は7月比0.3P以上アップ、**太字は7月比0.3P以上ダウン**

<児童版>

質問文	実現度		
	1.2年	3.4年	5.6年
1年間で100冊読書をめざし、進んで本を読むこと	5.1	3.8	3.3
授業中、しっかりと話が聞けること	5.9	5.4	5.1
授業中、進んで発表すること	5.7	4.7	4.1
授業中、勉強がよくわかること	6.1	5.8	5.6
進んで「おはよう」などの挨拶や「ありがとう」が言えること	6.1	5.5	5.7
学級や学校の生活が楽しいこと	6.4	5.4	5.7
学級や学校のきまりや約束を守ること	6.1	5.4	5.3
相手の気持ちを考え、考えて行動すること	6.5	5.3	5.3
早寝・早起き・朝ご飯など規則正しい生活をする	5.7	5.3	4.8
8時間以上睡眠をとること	5.5	5.7	5.5
毎日決まった時間、家で家庭学習(宿題)をすること	6.5	4.9	4.4
学校の当番や係活動をしっかりとすること	6.5	6.0	5.9
学校であったことを家で話すこと	5.5	4.9	5.0
家の人から努力したときや良い行いをしたときにほめられること	5.7	5.1	5.2
PTAや地域行事に進んで参加すること	4.6	3.6	3.5

アンケート結果より

<児童>

- 「授業中、勉強がよく分かる」、「学校生活が楽しい」、「当番や係活動をしっかりとすること」については実現度が比較的高い傾向にある。
- ▲全体的に中学年以降で数値が下がる傾向にある。(特に「進んで本を読む」、「進んで発表する」、「決まった時間に家庭学習をする」)など学習に対する意欲が下がる傾向。)
- ・「学校であったことを家で話す」がどの学年も7月と比較すると下がっている。
- ・低学年の睡眠時間が7月比で大きく減った。
- ・あいさつは子どもたちは概ね出来ていると思っいる。(全体的に保護者や教職員の評価より数値が高い傾向。)

<保護者>

- 7月に比べると全体的に数値が上がっている。
- ・「楽しく学校生活を送らせる」の数値が上がっており、子どもたちが学校を楽しんでいる様子が分かる。
- ・指導法の改善や家庭学習の習慣づけなど、学習指導への取組が重視されてきている。
- ▲あいさつの実現度は7月に比べると数値は上がっている。しかし数字は高くなく、進んでいる子は少ない。
- ・教職員の地域行事への参加が減っている。

<教職員>

- ・「あいさつ」については、低学年の子どもや児童会、教職員・PTA・中学校生徒会によるあいさつ運動など様々な取り組みを行っている。その結果少しずつ成果も出てきているが、家庭・地域とも連携して今後も継続して取り組みを進めていきたい。
- ・家庭学習や読書については、子どもたちもやり方やどんな本を読んでいるのかが分からず困っているのではないかと予想される。家庭学習や読書の充実に向けて、学校では子どもたちに声をかけたり良い見本を示したりするなど、子どもたちが具体的にイメージできるようにしていきたい。また、「家庭学習のてびき」(4月再発行予定)をもとに家庭との連携を図り、家庭学習の向上を目指していきたい。
- ・学校も家庭も子どもたちと対話したり活動したりする時間を増やしていきたい。(一緒に遊ぶ、一緒にごはんを食べる、一緒に本を読む、PTA行事に親子で参加するなど。)

<対策>

- ・「楽しく学校生活を送らせる」の数値が上がっており、子どもたちが学校を楽しんでいる様子が分かる。
- ・指導法の改善や家庭学習の習慣づけなど、学習指導への取組が重視されてきている。
- ▲あいさつの実現度は7月に比べると数値は上がっている。しかし数字は高くなく、進んでいる子は少ない。
- ・教職員の地域行事への参加が減っている。

<保護者・教職員版>

質問文	保護者		教職員	
	重要度	実現度	重要度	実現度
子どもにとって授業がよくわかること	6.9	5.2	19.1	5.0
子どもにとって学年相応(15分×学年)の家庭学習の習慣が身につけていること	6.3	4.3	23.3	4.8
子どもが学習に向かえるように工夫してはたらきかけること	6.3	4.1	24.5	4.9
子どもに読書の習慣が身につけていること	6.3	3.9	26.0	4.3
子どもがあいさつをしつかりと伝えること	6.9	4.7	23.1	4.4
子どもが毎日楽しく学校に通うこと	6.8	5.9	14.4	5.3
子どもが温かい仲間意識を持ち、思いやりや親切にする心を育むこと	6.9	5.3	18.5	4.9
子どもがきまりや約束を守って生活すること	6.8	5.1	20.0	4.9
子どもが早寝・早起き・朝ご飯の習慣を身につけていること	6.8	5.2	19.0	4.6
子どもに8～10時間程度睡眠をとらせること	6.7	5.6	15.9	4.1
学校が教育方針や教育活動の状況をわかりやすく伝えること	6.2	5.2	17.1	4.9
PTA活動に参加すること	5.0	3.6	21.8	3.5
学校行事や懇談会に参加すること、また働きかけること	5.8	4.7	19.4	3.5
子どもが進んでお手伝いや当番活動をする	6.2	4.2	23.3	5.3
子どもが努力したときや良い行いをしたときにほめること	6.8	5.1	19.3	5.5

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立久世西小学校)

1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(つきたい力を明確にした言語活動) 2. 豊かな心の育成(自律心と責任感の育成を旨とした協働活動)
3. 健やかな体の育成(基本的生活習慣の確立、体力の向上)

2 1回目評価

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	自己評価		学校関係者評価	
				評価日	評価者・組織	評価日	評価者(いずれかに○)
1	主体的に考え、表現し、伝え合える能力の育成 読書の習慣化 家庭学習の習慣化	・各教科での言語活動の充実 ・年7回の授業研究(外国語・特活) ・100冊読書の定着 ・朝読書の確実な実施 ・家庭・地域との連携 ・久世3校家庭学習のびきによる啓発活動	アンケート結果・各種指標結果 ・全国学力調査では国語・理科は全国平均を上回る ・算数は下回る 「進んで本を読んでいる」児童の割合 3～6年59%、1・2年73% 1日、決まった時間、家で家庭学習をしています が「学年×15分」	分析(成果と課題) 「外国語活動・特別活動」を柱とした校内研究が、落ち着いた学校・学級風土を作り、学習や活動に取り組み子どもたちの主体的な姿として表れてきている。 家庭学習の習慣化等では、高学年でやや向上が見られるが、学習時間は全国平均を下回る。	自己評価 評価日 平成27年9月8日 評価者 学校評価支援委員会	学校関係者評価 評価日 平成27年10月9日 評価者 学校運営協議会 学校評議員	確かな学力 1 ↑↑
2	あいさつの徹底 自己有用感の育成 協働活動を通じた豊かな心の育成	・三校児童会・生徒会を中心とした取組・教職員PTAによる挨拶運動の推進 ・兄弟学年によるピア・サポート・全校たてわり活動の取組 ・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・体験活動の充実	アンケート結果・各種指標結果 「進んで挨拶が言える」 3～6年79% 1・2年86% 高学年児童が様々な場面でリーダーシップを発揮している。 「学校の誇りが守られています」 か「3～6年78% 1・2年89%」 「相手の気持ちを考えよう」 と行動できていますか「3～6年76% 1・2年93%」	・あいさつ運動の推進について、児童会やPTAと連携でき、あいさつ運動が多くの方に「意識」された。アンケートでは、大きな変化はないが、子どもたちや保護者の方々の行動を促している。意識は変化しているように思われ、話を聞く態度を進めていっている。 「人の役に立っている」「自己有用感が6年生で向上している。集回つくりと体験活動のさらなる充実を図る。	自己評価 評価日 平成27年9月8日 評価者 学校評価支援委員会	学校関係者評価 評価日 平成27年10月9日 評価者 学校運営協議会 学校評議員	豊かな心 2 ↑↑
3	基本的生活習慣の確立 食育の推進	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ ・給食指導の取組 ・バランスを意識した食の指導	アンケート結果・各種指標結果 「規則正しい生活ができていますか」 3～6年74% 1・2年84% 「昨年より比べ健康の量は減ってきているが、ご飯は多い。」	・「生活調べ」状況を、保健だよりや学年だよりに掲載する。 ・「給食だより」で、食育の重要性や食のアドバイスを掲載する。	自己評価 評価日 平成27年9月8日 評価者 学校評価支援委員会	学校関係者評価 評価日 平成27年10月9日 評価者 学校運営協議会 学校評議員	健やかな体 3 ↑↑
4	小中一貫教育の推進 独自の取組	・久世三校合同授業研究会の実施 ・久世合同教育課題研究会の開催 ・小中合同教科主任会の新規開催 ・積極的なホームページの更新	アンケート結果・各種指標結果 ・学力向上に向けた自律的組織の確立 ・三校による教科会や主担任会の実施 ・外国語活動と英語の授業研究が進む。 ・前期 約172000回のアクセス数	・PDCAサイクルに基づき三校の運営組織が共通課題に取組む。小中一貫教育を確実に推進する。 ・積極的なホームページ更新を学年の主体で行うことで、子どもたちの様子等をよりわかりやすく伝える。	自己評価 評価日 平成27年9月8日 評価者 学校評価支援委員会	学校関係者評価 評価日 平成27年10月9日 評価者 学校運営協議会 学校評議員	独自の取組 4 ↑↑

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(京都市立久世西小学校)

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	自己評価		学校関係者評価	
				評価日	評価者(いずれかに○)	評価日	評価者(いずれかに○)
1	確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> 各教科での言語活動の充実 実・年7回の授業研究(外国語・特活) 100冊読書の定着 朝読書の確実な実施 家庭・地域との連携 久世3校家庭学習のてびきによる啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の話す・聞く態度の向上 児童の読書量(1年間)の増加 100冊読書の定着 朝読書の定着 家庭・地域との連携 久世3校家庭学習のてびきによる啓発活動 	平成28年2月18日	学校評価支援委員会	平成28年3月4日	学校関係者・学校評議員
2	豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> 三校児童会・生徒会を中心とした取組 教職員PTAによる挨拶運動の推進 兄弟学年によるピア・サポート 全校たてわり活動の取組 各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る 体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶が言える児童の割合は3～6年80%、1～2年87%でやや向上している 高学年児童が行事や児童会活動等でリーダーシップを発揮している 学級や学校のきまり、約束が守られています 相手の気持ちを考えながら行動しています 	⇒	⇒	⇒	⇒
3	健全な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 給食指導の取組 バランスを意識した食の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 朝寝・早起き・朝ごはんの割合は3～6年81%、1～2年81%で下がっている 全学年給食のおかず、ご飯の残量は少ない 	⇒	⇒	⇒	⇒
4	独自の取組	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の推進 久世三校合同授業研修会の実施 久世合同教育課題研修の開催 小中合同教科主任会の新規開催 積極的なホームページへの更新 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会4回実施できた 総合学習支援教育を学ぶ三校合同研修会が実施できた 1～4年の英語活動のカリキュラムの作成、小中連携を視野に入れた英語科授業研究が進んだ 約186000回のアクセス数がある 	⇒	⇒	⇒	⇒

4 総括・次年度の課題

・確かな学力の定着に向けた取組は、各学年とも成果として表れてきている。関係者評価において一定の評価をいただいた。
 ・特に来年度は、全国小学校英語活動研究大会での授業公開もあり、教員の発問の姿勢の改善を図っていく。
 ・学校評価を生かし、これまで築いてきた小中連携を推進する枠組みや現在行っている取組をもつと保護者にも知ってもらう活動が大切である。
 ・自己有用感を上げるには、保護者地域との連携が大切である。「やらされた」から「やろう」とする子どもたちに育てるため、教職員・保護者などの大人が、「一緒にやろう」という姿勢を持ち、子どもの「やりたいこと」を伸ばしていく。「子どもと一緒に楽しむ」そのよき機会が多くなるようにしたい。

学校評価のねらい

- 保護者・地域の方々が子どもを育む当事者として教育活動に参画し、学校・家庭・地域が一体となった「地域ぐるみ」の教育をすすめる。
- 具体的な行動目標として学校評価結果をまとめ、学校運営改善に着手する。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間	4	学校経営の基本方針 策定 教育指導計画書の作成 授業参観・学級懇談会 『嵯峨小学校の教育』説明会		学校だより 『嵯峨小学校の教育』リーフレット発行・HPにて公表（学校評価方針の公表）
	5	学級経営案策定 家庭訪問 授業参観・学級懇談会 学校評価の実施に向けた企画 評価項目（詳細）の検討	《第1回開催》 学校経営方針の説明 学校評価方針の説明	
	6	授業についての評価と分析・考察 授業参観・学級懇談会		
	7	学校評価のための保護者アンケート・ 児童ふりかえり点検の実施（1回目） 各委員会・部会評価実施 個人懇談会		
	8	評価結果の分析・改善策の検討		
	9			
	10	運動会参観 授業参観・学級懇談会	《第2回開催》 学校運営協議会による 学校関係者評価の実施	学校だより・HPで、結果・ 改善点を公表
	11	学芸会参観 ホームカミングデー（休日参観） 授業についての評価と分析・考察		
	12	各委員会・部会評価実施 個人懇談会 評価結果の分析・改善策の検討		
	年 間	1	学校評価のための保護者アンケート・ 児童ふりかえり点検の実施（2回目） 学級参観・学級懇談会	
2		フリー参観 評価結果の分析 改善策の検討		
3		授業参観・学級懇談会 次年度の方針の共通理解	《第3回開催》 学校運営協議会による 学校関係者評価の実施 次年度の方針を説明	学校だより・HPで、結果・ 改善点を公表

京都嵯峨学園 教育目標
「地域に学び、豊かな人間力を育む小中一貫教育をめざす」

9年間の学びと育ちの連続性

京都市立嵯峨小学校

学校教育目標
「自分らしく かがやく子」
～自分大好き、友だち大好き、キラキラ笑顔～

目指す子ども像
学びを楽しむ子 きまりを守る子 友だちにやさしい子 元気な子

平成27年度 学校経営方針
*学校は学ぶ場所という意識（児童・教職員・保護者・地域）の徹底
*「楽しく学べる」⇒「学ぶ楽しさを培う」授業の工夫 ⇒「学び続ける子ども」の育成
*豊かな学びの場に基づいた確かな力をつける授業の創造
*「すべての児童」を教職員組織全体が育てる体制づくり
*「自尊感情が高い子」「社会性が高い子」の育成
*計画的であるとともにその場に応じた人権教育
*自分の健康、安全を自分で守れる健康教育・安全教育

組織力（学校力）を高める

教職員個々の力を高める

・積極的な学校運営への参画
・主任を中心に学年組織の活性化
・分掌各主任を中心に組織の活性化

確かな学力
・コミュニケーション能力の育成⇒各教科の連携や学年の系統性を重視
・思考力、判断力、表現力の育成⇒意図的・計画的な言語活動の充実
・各種学力調査結果の指導への活用
・複数指導体制の活用

豊かな心
・学びを支える学習規律の育成
・学習集団としての高まり
・規範意識の醸成（学校でも、社会でも）
・3つの「あ」の徹底
・「なかまウィーク」における人権教育の充実
・たて割り活動の充実

健やかな体
・自分の健康と安全を守る力の育成
・開かれた保健室経営による子どもの居場所づくり
・歯磨き指導の徹底
・子どもの立場に立った給食指導を通じた食育の推進
・自分の身を守る実践的な避難訓練の実施

・校内外の研修への積極的参加
・ベテラン中堅教員の力量向上
・若手研のさらなる活性化
・積極的な校内での授業公開
・子ども主体の授業づくり

「開かれた学校づくり」
(学校評価の活用, HP, 学校だよりで情報公開)

地域との連携
学校運営協議会との連携（学校関係者評価）
地域諸団体との連携
地域の人材、素材を教材化し、授業に生かす

家庭との連携
PTAとの連携
保護者と課題を共有する（保護者アンケート）
家庭に寄り添った対応
家庭学習の習慣化

嵯峨小学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 保護者・地域の方々が子どもを育む当事者として教育活動に参画し、学校・家庭・地域が一体となった「地域ぐるみ」の教育を進める。
- 具体的な行動目標として学校評価結果をまとめ、学校運営改善に着手する。

2 重点評価項目

- 「確かな学力」の育成に向けて（伝え合う力の育成・わかる授業の構築・学習規律の徹底）
- 「豊かな心」の育成に向けて（規範意識の育成・人権教育・道徳教育・支え合い高め合う集団作り）

3 評価手法

教職員・保護者・児童に対するアンケート調査を実施した。アンケートの他、全国学力・学習状況調査やジョイントプログラムの結果、質問項目の内容、授業や行事での子どもたちの様子についても評価の判断材料として学校評価委員会で分析を行った。そして、その「自己評価」の結果を全教職員が共有した後、学校運営協議会に示し、妥当であるか評価を得た。これらの「自己評価」と「学校関係者評価」をもとに、「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告した。また、「学校評価支援システム」を活用し、児童は集計結果を、保護者はニーズ度の高い項目を示す形でアンケート結果をまとめ、学校だよりやホームページで公表した。また、本中学校区の小中合同学校運営協議会「京都嵯峨学園」として保護者アンケートを実施した。（59ページを参照）

4 アンケート結果等による分析

（1）確かな学力を身に付けるために

アンケートの結果、94.6%の児童が「学習がよくわかる、だいたいわかる」と答えている。また92.5%の保護者の方が、「学習内容がわかっている、だいたいわかっている」と回答している。

本校では「嵯峨小学校の教育」を基礎にして、子どもたちの学力向上に向けての取組を進めている。平成27年度は、「豊かに表現し、ともに学び合い、自分の考えを深める子」を本校の研究テーマとし、算数科を中心として全教職員で取組を行った。児童に確かな学力を付けるためには、まず児童が意欲的に学習に向かわなければならない。「児童の興味や関心を引き出す授業をすること」、「めあてをはっきりさせて授業をすること」、「わかりやすい板書をすること」などは、どれも大切な事項ととらえて授業を進めている。授業の中ではじっくりと子どもたち一人一人で考える時間を確保し、その考えを集団の中で深めていくことも行っている。そして、授業の最後に振り返りをして授業の学習内容の整理・定着を図っている。この流れで授業を行うことによって、子どもたちは、楽しく、積極的・主体的に学習に向かうことができるようになってきていると考えられる。本来、子どもたちは「考える」ことが大好きである。学習意欲を高める授業を行うことにより、子どもたちに思考力を身に付けさせるとと

もに、考えを自ら深めていくことのできる子の育成を目指している。

また、「ノート書き方」にも重点をおいて取組を行った。板書をしっかりノートに書くだけでなく、「自分が考えたこと」や「ふりかえり」などを自分の言葉で丁寧に書くように指導している。「ノートに勉強したことや考えたことをていねいに書いていますか」という質問には、87.2%の児童が「よくできている」、「だいたいできている」と答えている。第2回（後期）のアンケートでは、「よくできている」と答えた児童の割合は、第1回（前期）のアンケートより約3ポイント高くなった。このように、ノートづくりは着実に子どもたちの中に定着しつつあるが、なお8人に1人の児童が、十分にノートづくりができていないという現状も明らかになった。小学生の時期に、子どもたち全員がノートをしっかりと書くことができるよう、さらに取組を進めていきたい。

確かな学力を付けるためには、学校での学習と共に家庭学習も不可欠である。4月に行われた「全国学力・学習状況調査」において、本校6年生の家庭学習の状況が明らかになった。それによると、「家で、自分で計画を立てて学習していますか」という質問に対して、「あてはまる」と答えた割合は全国平均を少し下回り、本校の家庭学習の実態に課題があることがわかった。児童アンケートにおいては、「宿題は毎日忘れずにしていますか」という質問に、「よくできている」と答えた児童は68.6%で、「だいたいできている」と合わせて、9割の子どもたちが肯定的な回答をしている。しかし、「宿題さえすればそれでよい」のではなく、自主的に学習していく態度が身に付くことが必要であり、学校としても、子どもたちにとってより適切な宿題はどのようなものなのか等改めて検証し、全ての児童に家庭学習が定着するよう、取組を推進する。

（2） 人との繋がりや社会性について

本校が一貫して取組を進めている「あいさつ・ありがとう・あとしまつ」の3つの「あ」が、子どもたちの中にも根付いてきているように感じる。人間関係の基本となる「あいさつ」「ありがとう」については、第1回学校評価の際に、「集団の中では概ねあいさつができるが、個人としてはまだまだできていない」との評価をいただいたが、する子としない子、言える子と言えない子の差がまだあるような印象を受ける。「自分から進んであいさつしていますか」との質問には、9割の児童が「よくできている」「できている」と答えている。ところが、保護者アンケートでは「よくできている」のは19.7%となり、「だいたいできている」とあわせても75%となっている。つまり、大人が期待している達成ラインと子どもたちの達成ラインが大幅に異なっていることが見受けられる。

「あとしまつ」については、全校朝会や児童会を中心に取組を行ってきた。「トイレのスリッパを揃える」「掃除用具をしっかりと片づける」など、基本的なことが多いが、どのようにすればできたと認められるのか、まず教職員が具体的なモデルを示していくことの必要性を感じている。「学習環境の乱れ」は「子どもたちの心の乱れ」に繋がり、「学校全体の乱れ」にも繋がる。引き続き学校でも徹底した取組を進めながら、家庭や地域に対しても協力していただけるよう働きかけをした。

5 自己評価

学校評価実施報告書（45，46ページ）を参照

6 学校関係者評価

学校運営協議会による「学校関係者評価」の中において、委員からは「ノート指導の重要性については、学校で取り組んでいるノート指導により、子どもたちのノートが見違えるようになってきた。今後は、一部の子どもだけではなく、全ての子どもたちがノートをしっかり書けるようになっていくことが重要であり、低学年の時から徹底した指導が大切である。お手本となる子どものノート掲示なども継続し、子どもたちのノートについての意識を高める取組が進められることを望んでいる」等の意見をいただいた。

学校と家庭との連携については、「子どもたちの育ちを学校だけではなく、各家庭でしっかりと支えていただいていることがアンケート結果からわかり、これは大変すばらしいことである。学校と各家庭とが連携を深めていくためには、学校の取組方針などを保護者にさらに浸透させていくことが重要である。」等の意見をいただいた。

前述の「3つの『あ』の取組」の継続については、「本校で取り組んでいる『あいさつ』『ありがとう』『あとしまつ』の3つの『あ』について、取組の成果が確実に表れてきている。登校時や下校時に声をかけると、たいていの子はあいさつを返してくれるようになった。3つの『あ』の取組を継続させていくとともに、保護者や地域にも発信し続けていくことが大切である」等の意見をいただいた。

また、人権教育・道徳教育の充実に向けて、「集団登校中に、高学年が低学年の安全に気を配りながら登校している様子が見られ、子どもたちの心に優しさが育っている。道徳の授業や人権の取組である『なかまウィーク』などを通して、子どもたちの人権意識をさらに高めていくための取組を、今後も充実させてほしい」等の意見をいただいた。

7 総括・次年度に向けた課題等

- 授業への子どもたちの意欲は大変高い。しかし、定着度については学年により差があるので、定着度の低い学年を詳しく分析し、次年度につなげていくことが必要である。また、家庭学習の充実を目指すことも課題である。
- 縦割り活動が本校の取組として定着しているので、子どもたちの自己有用感、上級生に対する尊敬の心が育ってきている。取組の中で、効果が少ないもの、効果が大きかったものを調査し、再構築していく。
- 本校で取り組んでいる「3つの『あ』の取組（あいさつ、ありがとう、あとしまつ）」を今後も進めていく。児童だけではなく、保護者への呼びかけも学校だよりなどで行っていく。
- 小中一貫教育を進めるため、まずは教職員の交流の活発化を図る。具体的には京都嵯峨学園4校の授業交流（年間2回）、夏季合同研修会を実施する。



平成 27 年度第 1 回学校評価結果について

第 1 回学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。夏休み前に実施いたしました「学校評価保護者アンケート」では 95% の保護者の方にご回答いただき、たくさんの貴重なご意見をいただくことができました。

結果より

保護者アンケートや児童のアンケートから、本校児童は「楽しい学校生活をおくっている」、「みんなと協力して色々なことに取り組んでいる」児童の姿が明らかになりました。特に本校では、『嵯峨小学校の教育』にも掲げているように、子どもを主人公に据えた取組を行っています。児童会活動や 1 年生から 6 年生までを縦割りにしたフレンドリー活動では、子どもの生き生きとした姿を見ることができます。さらに特筆すべき事がらとして、本校児童は社会生活を営んでいくための基盤となる「学校のきまり」、「社会のきまり」など基本的なルールに則った生活ができており、落ち着いた学校生活が送れていることがわかります。また、子どもたちは学校だけでなく、地域との様々な関わりの中で育っていることも明らかになりました。

一方、様々な課題も明らかになってきました。「確かな学力の育成に向けて」でも後述いたしますが、「自分の思いをしっかりと伝えていく」ことに苦手意識を持っている児童も少なくありません。子どもたちが将来生きていく多様な社会の中では、自分の思いをしっかりと持ち、それを表現し、他の人と協力しながら生きていくことが必要になってきます。子どもたちに「伝え合う力」を付けるために、今行っている教育活動について検証し、工夫、発展させていかなければなりません。

学校運営協議会による学校関係者評価

10月21日(水)に学校運営協議会を開催し、平成27年度第1回学校評価結果についての学校関係者評価をいただきました。今回のご意見をもとに本校の取組を点検し、今後の学校運営に生かしていきたいと考えています。

◎あいさつの徹底

集団登校時には、多くの児童が元気な気持ちのよいあいさつができるようになってきた。しかし、集団登校以外の時や下校時では、あいさつが十分にできていない。自発的なあいさつができるように今後も働きかけていかなければならない。

◎あとしまつの大切さ

トイレのスリッパ等、あとしまつができていない時がある。みんなのことを考えて気遣いの気持ちで行動できる子どもたちに育てほしい。

◎自ら学習していこうとする姿勢が生まれてきている

放課後まなび教室等で感じることであるが、今までは「宿題をやっているだけでいい」という子がほとんどであったが、最近は「自分が必要な勉強をやっていこう」とする子どもたちの姿が見られるようになってきた。子どもの意欲を引き出すための取組をこれからも継続してほしい。

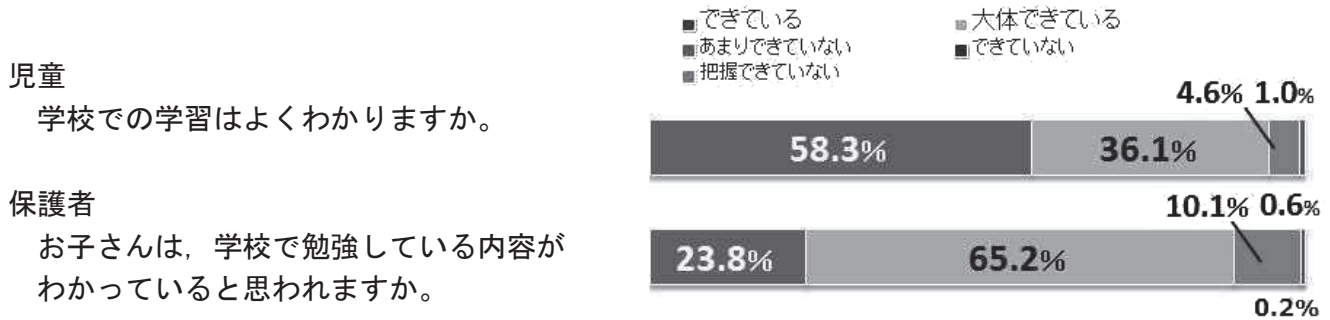
◎子どもたちの主体性を育てる

子どもたちは普段「人にしてもらおう」ことに慣れている。子どもたちが本来持っている能力をさらに発揮できるような場を学校だけでなく、地域でも考えていかなければならない。地域行事での活動を通して、「人のために行動する」子どもたちを育てていきたい。

■確かな学力の育成に向けて

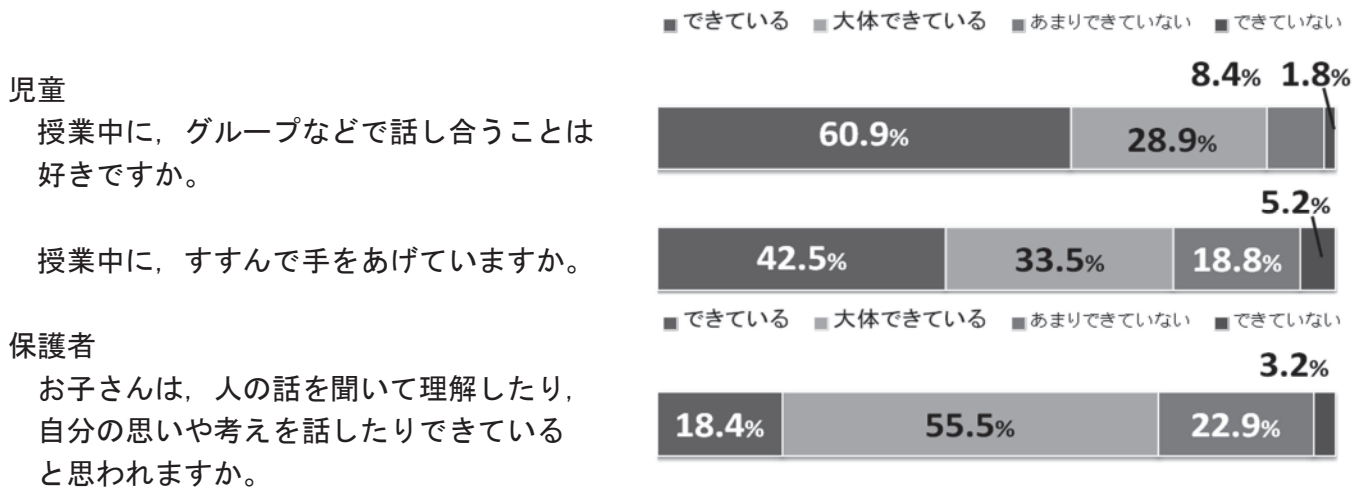


さらに「わかる授業」を目指していきます。



児童のアンケート結果からは94.7%の児童が、また保護者からはほぼ9割の方に「学習内容が理解できている」という回答をいただきました。学校だより10月号でもお知らせいたしましたが、4月の全国学力・学習状況調査においてもすべての教科で全国平均を上回る結果となっています。今後さらに子どもたちが意欲的に学習に取り組み、わかる喜びやできる楽しさを感じられるような授業を行っていきます。すべての授業でめあてを提示すること、わかりやすい板書をする、考える力を高める授業を工夫することなどを全教職員で進めていきます。

伝え合う力を子どもたちにつける取組をさらに進めていきます。



一方で、伝え合う力に課題があることが明らかになってきました。9割の児童が「グループで話したりすることは好き」と答えているのに対し、4人に1人の児童が「授業中すすんで手をあげて発表すること」を苦手と感じていることが分かりました。同様に4人に1人の保護者が十分にコミュニケーションの力（話す・聞く）が付いていないと感じられています。これらのことから、小さなグループなどでは自分の思いを伝えることができているが、学級や学年などの大きな集団の中で、自分の意見を堂々と発表したり伝えたりすることにまだまだ課題があることがうかがえます。自分の思いを積極的に言葉で表現しようとする意欲・態度は今後ますます必要になってきます。自信をもって周りに伝えていくためには、ペアやグループでの学習はもちろんのこと、子どもたちの発言中心の授業を今後も進めていかなければなりません。さらに授業だけではなく、学級活動や集会など、あらゆる教育活動の中でも伝え合う力を付けていくための取組を取り入れていく必要があると考えています。また、自分の思いを伝えるためには安心して話すことのできる環境、すなわちよい聞き手を育てていくことも重要であると考えています。

また、「書くこと」については、授業だけではなく、さまざまな活動の中で「書く」指導を進めていますが、授業のあしあとを残していきにくいノート作りや、自分の思いを文章に表わすといった「書くこと」を苦手と捉えている児童がいることが分かりました。これらのことを踏まえて、今後学校では日常的に子どもたちに「書く」活動を取り入れた授業を工夫するとともに、「書く楽しさ」を味わうことができる取組をしていきたいと考えています。

■豊かな心の育成に向けて

規範意識を育みます。

児童

学校や家でのきまりを守っていますか



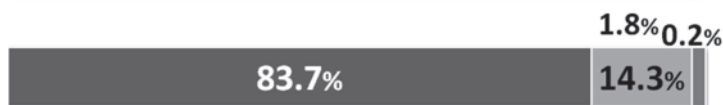
友だちや家の人が悲しくなるようなひどい言葉遣いをしないように気をつけていますか。



家や学校で自分からすすんであいさつをしていますか。

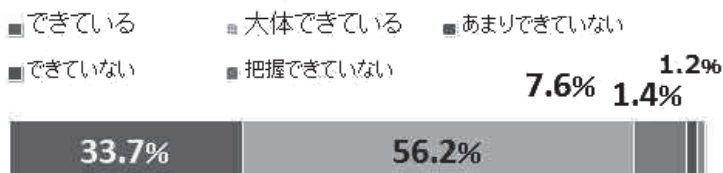


人をいじめたり仲間はずれにしたりしないように気をつけていますか。



保護者

お子さんは、学校のきまりや社会のルールを守れていると思われませんか。



お子さんは言葉遣いに気をつけていると思われませんか。



気持のよいあいさつができていると思われませんか。



学校や社会のルールについては「社会で許されないことは学校でも許されない」という方針で指導を徹底していますが、嵯峨小学校の児童はアンケート結果から、「守らなければならないこと」「してはいけないこと」をしっかり理解しており、規範意識は高いといえます。しかし、保護者アンケートからわかるように、学校外でも同じような行動がとれているかという点、決してそうとはいえません。また、子どもたちの「いじめは許されない」という意識はとて高いことがわかります。「正しいこと」をしっかり理解しているのは嵯峨小学校の児童の素晴らしいところですが、その意識をいかに行動につなげていくかがこれからの課題です。「意識」を「行動化」させていくための指導をこれからも引き続き行っていきます。

支えあい高め合う集団作りを進めていきます。

児童

フレンドリー活動は好きですか。

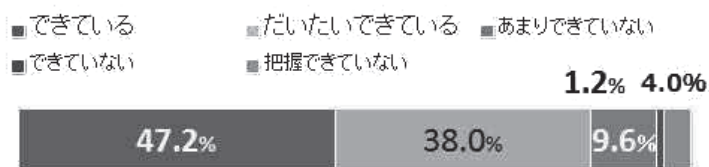


みんなと協力して、いろいろなことに取り組むことは好きですか。



保護者

学級活動や児童会活動、フレンドリー活動などを通じて、子どもの発想を生かした取組が進められていると思われませんか。



友だちや周りの人と協力して課題を解決していくことができていると思われませんか。



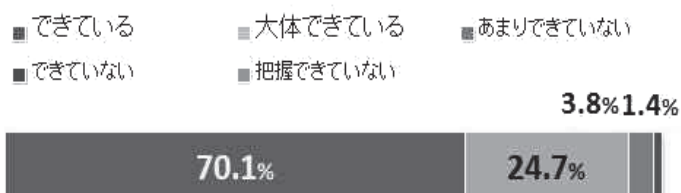
他の人と協働しながら生きていく力が今後ますます必要とされる中、本校では子どもたちの主体性、社会性を育てていく取組を行っています。フレンドリー活動（たてわり活動）を通して、思いやり、尊敬の心を育み、多様な人と協力して取り組んでいく力を育てています。全国学力・学習状況調査においても、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」という質問に対し、嵯峨小の児童は全国平均を15ポイント以上上回る結果となりました。これは子どもたちが嵯峨小学校の取組で、仲間とやり遂げることの素晴らしさを実感し、価値を見出しているといえます。これからも本校のたてわり活動、児童会の取組などについては継続させ、さらに主体的・協働的に学んでいく力を育てていきたいと考えています。

■生きる力を育むために

課題へ挑戦していく力を育てていきます。

児童

難しいことでも、がんばって挑戦していますか。



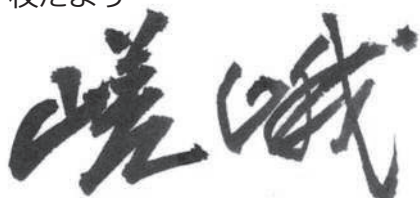
保護者

難しいことでも失敗をおそれずに挑戦していく力を付けていると思われませんか。



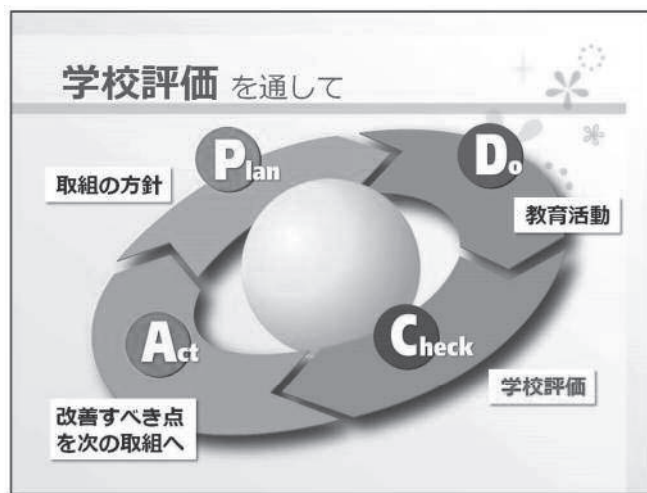
「難しいことでもがんばって挑戦していますか」とい質問について、「できている」「だいたいできている」と答えた児童は9割を超えているのに対し、保護者への「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していく力を付けていると思われませんか」という質問には、半数近い方が「できていない・あまりできていない」と答えられています。

今の子どもたちが社会で活躍する頃には、変化に富んだ厳しい時代になるかもしれません。新たなことに直面した時、どのように行動していくかは豊かに生きていく上でとても重要なことであると考えています。本校の児童が豊かに生きる力を付けていくためには、今から「課題に向かっていく力」を付けていかなければなりません。そのためには、小さな課題を一つずつクリアしていく仕組みを作り、体験を積ませることが必要となります。全国調査においても、「無回答率（回答欄に何も書いていない割合）」が低い傾向にある一方で、「新しい問題に出会ったときにそれを解いてみたいと思うか」という質問に対し「思う」と答えた児童の割合は決して高くない結果となっています。真面目に最後まで取り組んでいこうとする姿がうかがえる反面、初めて出会うことに対し挑戦していこうとする姿勢が少ないのではないかと分析することができます。今後ますます教職員・保護者・地域が一体となって、嵯峨小学校の子どもたちに「課題へ挑戦していく力」を育てていく必要があると考えています。



平成 27 年度 第 2 回学校評価結果について

嵯峨小学校の学校評価は、本校の指針である『嵯峨小学校の教育』に基づいて、各家庭や地域と連携を図り、子どもたちの学びと育ちを実現できているか考察し、今後の取組について具体的な方向性を示すためのものです。保護者の皆様からいただいたアンケートや児童のふりかえりなどを参考にさせていただいています。



第 2 回学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。1 月に実施いたしました「第 2 回学校評価保護者アンケート」では、94.9%の保護者の方にご回答いただき、たくさんの貴重なご意見をいただくことができました。

学校運営協議会による学校関係者評価

3 月 9 日（水）に学校運営協議会を開催し、平成 27 年度第 2 回学校評価結果についての学校関係者評価をいただきました。今回のご意見を真摯に受け止め、来年度の本校教育活動に生かしていきたいと考えています。

◎ ノート指導の重要性

学校で取り組まれているノート指導により、子どもたちのノートが見違えるようになってきた。今後は、一部の児童だけではなく、すべての児童がノートをしっかり書けるようになっていくことが重要であり、低学年の時から徹底した指導が大切である。今行っているお手本となる児童のノート掲示なども継続し、子どもたちのノートについての意識を高める取組が進められることを望んでいる。

◎ 学校と家庭との連携

子どもの育ちを学校だけではなく、各家庭でしっかりと支えていただいていることがアンケート結果からわかり、これは大変素晴らしいことである。学校と各家庭とが連携を深めていくためには、学校の取組方針などを保護者にさらに浸透させていくことが重要である。

◎ 3 つの「あ」の取組の継続

本校で取り組んでいる「あいさつ」「ありがとう」「あとしまつ」の 3 つの「あ」について、取組の成果が確実に表れてきている。登校時や下校時に声をかけると、たいていの子はあいさつを返してくれるようになった。3 つの「あ」の取組を継続させていくとともに、保護者や地域にも発信し続けていくことが大切である。

◎ 人権教育・道徳教育の充実に向けて

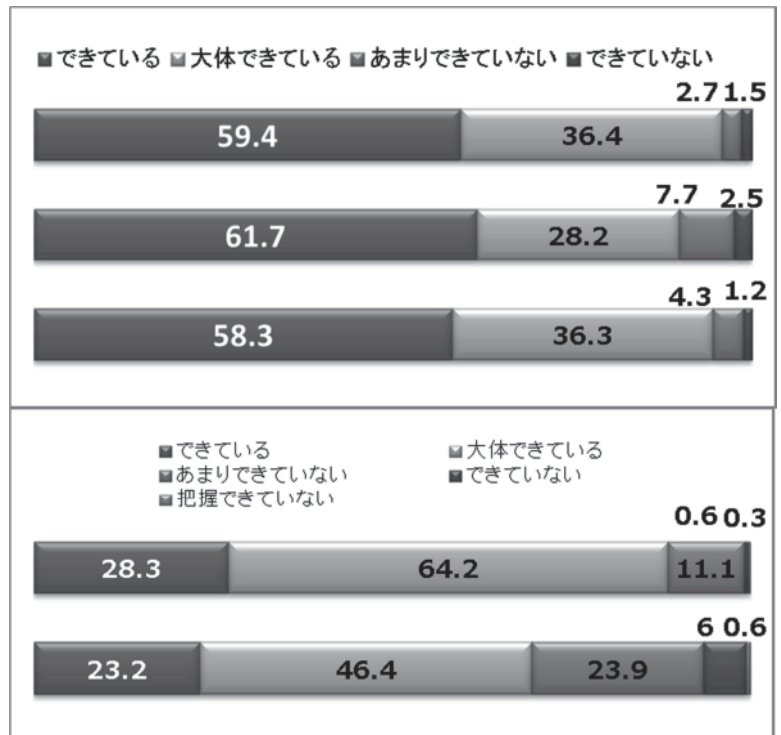
集団登校中に、高学年が低学年の安全に気を配りながら登校している様子が見え、優しさが育っている。道徳の授業や人権の取組である『なかまウィーク』などを通して、子どもたちの人権意識をさらに高めていくための取組を、今後も充実させてほしい。

確かな学力を身に付けるために

学習意欲と理解について

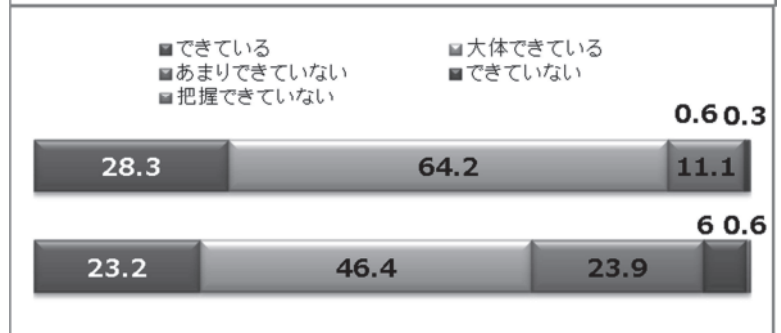
児童

- ・ 学校で学習することは楽しいですか。
- ・ 算数の時間は楽しいですか。
- ・ 学校での学習はよくわかりますか。



保護者

- ・ お子さんは、学校で勉強している内容がわかっていると思われませんか。
- ・ お子さんは、算数の授業に関心があると思われませんか。



アンケートの結果、94.6%の児童が「学習がよくわかる、だいたいわかる」と答えています。また92.5%の保護者の方が、「学習内容がわかっている、だいたいわかっている」と回答されています。

本校では『嗟峨小学校の教育』を基にして、子どもたちの学力向上に向けての取組を進めています。今年度は、「豊かに表現し、ともに学び合い、自分の考えを深める子」を本校の研究テーマとし、算数科を中心として全教職員で取組を行いました。児童に確かな学力を付けるためには、まず児童が意欲的に学習に向かわなければなりません。「児童の興味や関心を引き出す授業をすること」、「めあてをはっきりさせて授業をすること」、「わかりやすい板書をする事」などは、どれも大切な事項ととらえて授業を進めています。授業の中ではじっくりと自分で考える時間を持ち、その考えを集団の中で深めていくことも行います。そして、授業の最後に振り返りをして授業の学習内容の整理・定着を図ります。この流れで授業を行うことによって、子どもたちは、楽しく、積極的・主体的に学習に向かうことができるようになってきました。

本来子どもは『考える』ことが大好きです。意欲を高める授業を行うことにより、子どもに思考力を身に付けさせるとともに、考えを自ら深めていける子に育てていきたいと考えています。

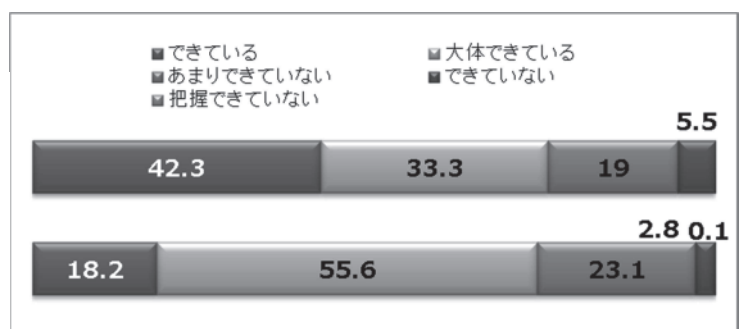
コミュニケーション能力について

児童

- ・ 授業中、すすんで手をあげていますか。

保護者

- ・ お子さんは、人の話を聞いて理解したり、自分の思いや考えを話したりできていると思われませんか。



今回の保護者アンケートの中で、「よくできている」の割合がかなり低かった項目です。自分の思いや考えたことを人に説明していく力を今からつけていくことは、本校児童にとっての大きな課題であると考えています。人から指示されたことをまじめに行うことは嵯峨小学校の児童は特によくできていますが、自らが主体となって伝えていくことに苦手意識があるのが明らかです。自分の考えを周りの人に筋道立てていかに伝えていくかは、今後さらに重要となってきます。授業で発表するときにも、「どのように言えば周りの人にわかりやすく伝えていけるのか」なども学年に応じて徹底して取り組んでいます。今後の本校の最重要課題の一つであるといえるかもしれません。

ノートづくりについて

児童

- ・ノートに勉強したことや考えたことをていねいに書いていますか。



また、『ノートの書き方』にも重点をおいて取組を行いました。板書をしっかりノートに書くだけでなく、「自分が考えたこと」や「ふりかえり」などを自分の言葉でていねいに書くように指導しています。「ノートに勉強したことや考えたことをていねいに書いていますか」という質問には、87.2%の児童が「よくできている」、「だいたいできている」と答えています。よくできていると答えた児童の割合は、第1回のアンケートより約3ポイント高くなりました。ノートづくりは着実に子どもたちの中に定着しつつありますが、なお8人に1人の児童が、十分にノートづくりができていないという現状も明らかになりました。小学生の時期に、全員がノートをしっかりと書くことができるように、さらに取組を進めていきます。

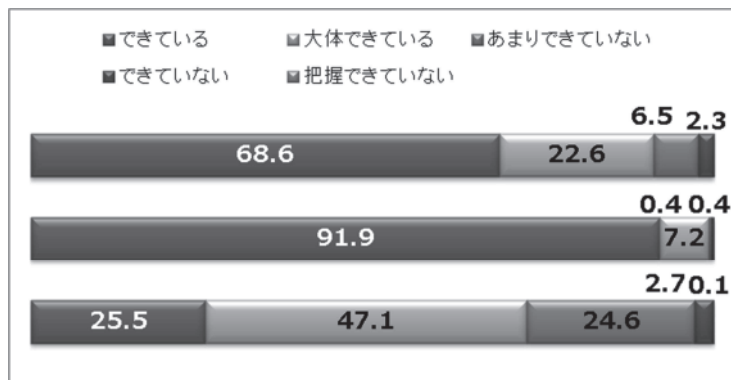
家庭学習について

児童

- ・宿題は毎日わすれずにしていますか。

保護者

- ・家庭学習の習慣をつけることは重要だと思われませんか。
- ・お子さんは、進んで家庭学習に取り組んでいますか。



確かな学力を付けるためには、学校での学習と共に家庭学習も不可欠です。4月に行われた「全国学力・学習状況調査」において、本校6年生の家庭学習の状況が明らかになりました。それによると、「家で、自分で計画を立てて学習していますか」という質問に対して、「あてはまる」と答えた児童は全国平均を少し下回り、本校の家庭学習の実態に課題があることがわかりました。児童アンケートにおいては、「宿題は毎日忘れずにしていますか」という質問に、「よくできている」と答えた児童は68.6%で、「だいたいできている」と合わせて、9割の児童が肯定的な回答をしています。しかし、「宿題さえすればそれでよい」のではなく、自主的に学習していく態度が身に付いていくことが必要なのです。学校としても、児童にとってより適切な宿題はどのようなものかなどをあらためて検証し、全ての児童に家庭学習が定着していくように、取り組んでいかなければなりません。

■人とのつながりや社会性について

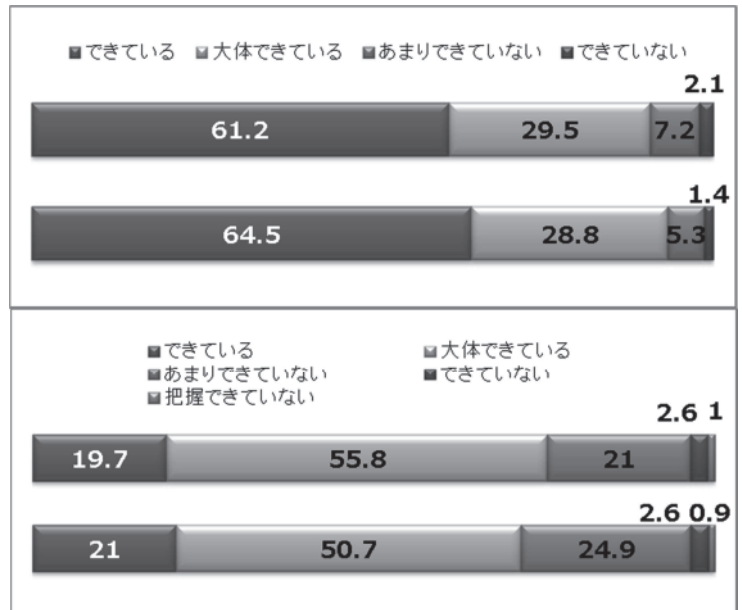
あいさつと言葉づかいについて

児童

- ・家や学校で自分からすすんであいさつをしていますか。
- ・友達や家の人が悲しくなるような、ひどい言葉づかいをしないように気を付けていますか。

保護者

- ・お子さんは、場に応じた気持ちのよいあいさつができていますかと思われませんか。
- ・お子さんは、言葉づかいに気を付けていると思われませんか。



本校が一貫して取組を進めている「あいさつ・ありがとう・あとしまつ」の3つの「あ」ですが、子どもたちの中にもこの言葉が根付いてきているように感じます。人間関係の基本となる「あいさつ」「ありがとう」については、第1回学校評価の際に、「集団の中ではおおむねあいさつができるが、個人としてはまだまだできていない」との評価をいただきましたが、する子としない子、言える子と言えない子の差がまだあるような印象を受けます。「自分から進んであいさつしていますか」との質問には、9割の児童が「よくできている」「できている」と答えています。ところが、保護者アンケートでは「よくできている」のは19.7%にとどまり、「だいたいできている」とあわせても75%となっています。つまり、大人が期待している達成ラインと子どもたちの達成ラインがずいぶん違っていることがわかります。

「あとしまつ」については、全校朝会や児童会を中心に取組を行ってきました。「トイレのスリッパをそろえる」「掃除用具をしっかりとたづける」など、どれも基本的なことばかりですが、どのようにすれば可なのか、まず教職員が具体的なモデルを示していくことの必要性を感じています。「学習環境の乱れ」は「子どもたちの心の乱れ」につながり、「学校全体の乱れ」にもつながっていきます。学校でも続けて徹底した取組を進めていきますが、ぜひご家庭や地域でも働きかけをお願いいたします。

■次年度に向けて

子どもたちは多くの方の関わりの中で、嵯峨小学校でたくさんを学び、すくすくと育っています。嵯峨独特の豊かな自然に触れ、また、多くの伝統に親しみながら、仲間と協力することの大切さも学んでいます。子どもたちの成長に関わる私たちは、今一度「嵯峨小の子どもたちの課題は「何」で、身に付けておかなければならない力は「何」なのか」をしっかりと吟味し、来年度に向かわなければなりません。時代が変わろうが通用する力、例えば、豊かな人間関係を築いていく力、課題に直面した時に乗り越えていく力、そして将来に役立つ確かな学力など、それらの力をしっかりと身に付けてたくましく育ってほしいと切に願っています。そのために、今年度提示した『嵯峨小学校の教育』を子どもの実態に合わせて見直し、よりよい学校教育を目指して取り組んでいきます。しかし、これは地域及び保護者の方々の協力なしに進めることはできません。子どもたちのよりよい成長に携わる立場として、ぜひ来年度以降も本校教育にご支援をいただきますよう、お願いいたします。

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立嵯峨小学校)

1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(考える力・伝え合う力の育成)

3. 健やかな体の育成(体力の向上)

2. 豊かな心の育成(主体性・社会性を目指した協働活動)

2 1回目評価

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	自己評価		学校関係者評価	
					評価日	評価者・組織	評価日	評価者(いずれかに○)
1	伝え合う力の育成 わかる授業の構築	算数科及び各教科での言語活動の充実(ペア・グループでの表現活動) 学習課題・授業の流れの明確化、児童の発言中心の授業、板書の工夫	授業中にすすんで手を挙げていますか。・グループで話し合うことは好きですか。 学校での学習はよくわかりますか。 ジョイントプログラム結果	アンケート結果 各種指標結果 進んで手を挙げている75% グループで話し合うことは好き90% 授業がよくわかる94% ジョイントプログラム算数正答率平均より8ポイント高い 書かれている87% 聞かれている95%	⇒	分析(成果と課題) (グループでの話し合いが「好き」と答える児童は90%に達しているが、自ら積極的に発言することに関してはまだまだ課題がみられる。) ジョイントプログラムの算数では8ポイント市平均を上回った。学習規律は徹底されている。家庭学習の時間が少ない。	自己評価 平成27年9月28日 学校評価委員会	学校関係者評価 平成27年10月21日 (学校運営協議会) 学校評価委員
2	確かな学力 規範意識の育成 人権教育・道徳教育 伝え合い高め合う集団作り	3つの「あ」の取組 嵯峨小学校の「まきまき」の徹底 生徒指導交流 各学年で人権目標を作成 道徳の学習の充実 毎月のなまこまウィーク 縦割り活動 児童会活動	「まきまき」を守っていますか。いじめたりしないよう気を付けていますか 「まきまき」を守っていますか。いじめたりしないよう気を付けていますか 「まきまき」を守っていますか。いじめたりしないよう気を付けていますか 「まきまき」を守っていますか。いじめたりしないよう気を付けていますか 「まきまき」を守っていますか。いじめたりしないよう気を付けていますか 「まきまき」を守っていますか。いじめたりしないよう気を付けていますか 「まきまき」を守っていますか。いじめたりしないよう気を付けていますか 「まきまき」を守っていますか。いじめたりしないよう気を付けていますか	「まきまき」を守っている96% いじめたりしないよう気を付けている98% 「まきまき」を守っている98% 児童93%、保護者67% 縦割り活動が好きなこと協力して取り組むことが好き96%	⇒	「集団登校時において、気持のよいあいさつができるようになってきた。しかし、個々で登校する時にはしっかりとあいさつができていない。 ・学校のトイレのスリッパがきちんとそろっていない。	学校関係者評価 平成27年9月28日 学校評価委員会	学校関係者評価 平成27年10月21日 (学校運営協議会) 学校評価委員
3	好ましい食生活 体力の向上	ランチルームでの給食指導 給食委員会の取組 栄養指導による「食」に関する指導 運動の習慣化(縦割り遊び) 持ち走前の業間マラソン	給食指導の状況 給食の残菜調べる指導 体力テストの結果 休み時間の児童の過ごし方 運動系部活動の状況	児童は給食への関心が高く、好き嫌いを減らそうとしている。 児童の多くが運動系の部活動に参加し、体力作りに励んでいる。 地域の行事に参加している…全国平均より19ポイント高い 京都嵯峨学園4校教職員による模擬授業及び協議会の実施 行事等におけるアセスメント600以上	⇒	・子どもが好きな食生活の向上を図りたい。 ・地域の色々な行事を通して体力の向上を図りたい。	自己評価 平成27年9月28日 学校評価委員会	学校関係者評価 平成27年10月21日 (学校運営協議会) 学校評価委員
4	地域との連携 小中一貫教育 情報発信	地域行事への児童及び教職員への参加 学校だより地域版の発行 京都嵯峨学園夏香合同研修会児童の合同行事への参加 積極的な学校だより、学級便りの発行 ホームページの更新	学校評価アンケート 全国調査アンケート 合同研修会の内容を改善・発展 学校ホームページのアセスメント 保護者の感想	小中連携主任を中心に京都嵯峨学園の行事について整理し、授業交流の機会を持つ。児童及び教職員の地域行事の参加の整理・精選・わかりやすい学校だより、ホームページの作成	⇒	・地域の交通安全教室で上級生が下級生を親身になって指導している場面が見られ、とても感心した。 ・ホームページ及び学校だよりで児童の学力実態や学校の様子がよくわかる。	自己評価 平成27年9月28日 学校評価委員会	学校関係者評価 平成27年10月21日 (学校運営協議会) 学校評価委員

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわたる取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定		自己評価		学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策
1	伝え合う力の育成 わかる授業の構築 学習規律の徹底	算数科及び各教科での言語活動の充実(ベアグループでの表現活動) 学習課題・授業の流れの明確化、児童の発言中心の授業、板書の工夫 嵯峨小トライアップの徹底「よりよい学習のために」への記入・振り返り	「話し合うことは好き」は89.9%で、授業での伝え合い活動は定着している プレジデントでは全市平均を約1P下回り、ジョイントPでは全市平均を約4P上回る。 「人の話を聞いている」のアンケートでは、聞いている4P上昇	・根拠をもとづいて説明は次年度以降も継続していく。 ・授業の中で時間配分を取返つたのは、児童の実態を把握しての取組が不十分であったのではないかと、 ・ノート指導においては、自分の考えをノートに記述することにより、ノートの質が向上した。	・子どもたちを支えている家庭での教育力が着実に育ってきている。 ・ノートの書き方は向上しているが、児童によりかたまりの差があるように感じる。 ・教師がもっと言葉の少ない授業を心がけるべきである。
2	規範意識の育成 人権教育・道徳教育 支え合い高め合う集団作り	3つの「あ」の取組「嵯峨小学校の誇り」の徹底、生徒指導交流 各学級で人権目標を作成 道徳の学習の充実 毎月のなかまウィーク 縦割り活動 児童会活動	きまりを守っている⇒98%、いじめをしないように気を付けている⇒98% 気を付けている児童⇒94%、保護者⇒72% 縦割り活動が好き⇒92%、協力して取り組むことが好き⇒95%	・言葉づかいについて、子どもの達成のレベルと保護者の達成レベルとの差があり、地域や家庭での言葉づかいに課題があることがわかる。 ・縦割り活動にて子どもたちの他者をいたわる気持ちは育っている。 ・あとしまつに課題が残る。	・集団登校時、高学年が低学年をサポートしながら登校する様子が目につく。 ・地域で子どもたちに声をかけると声を返してくれるようになった。 ・福祉の教育は十分行われているのか、体験のみになっていないか。
3	好ましい食生活 体力の向上	ランチルームでの給食指導 給食委員会の取組 栄養教諭による「食」に関する指導 運動の習慣化(たてわり遊び) 持久走前の業間マラソン	給食の残菜がほとんどなく、食への関心が高い。 体力テストで全市平均を少し上回っている。	・栄養教諭を中心に食に関する指導を進めているので、児童の意識が高まりつつある。 ・外遊びを学校全体で進めていることが、体力向上につながっている。	・児童の食指導の啓発を行っている。 ・今行っている地域の行事の中で、子どもの心身の育成を図る取組を今後継続していく
4	地域の連携 小中一貫教育 情報発信	地域行事への児童及び教職員の参加 学校だより地域版の発行 京都嵯峨学園夏修会合同研修会児童への参加 積極的な学校だより、学級便りの発行 ホームページの更新	91%の保護者が、地域と学校がうまく連携していると答えている。 90%の教職員が小中連携が重要だと回答している。 88%の保護者が、HPなどで学校の様子がよくわかると回答している。	・本校と他小では、明らかに地域とのつながりの深さが現れている。 ・効果的に、開校して以来、子どもたちが多く話をするための「ネタ」を発信している。 ・小中一貫教育研修会を行う学校だよりの及びホームページの充実を図る。	・子どもたちが地域行事に参加しやすいように、プログラムを再考し、開校して以来、スタッフの方が多くなるように、さらに呼びかけていく。

4 総括・次年度の課題

・授業への子どもたちの意欲は大変高い。しかし、定着度については学年により差があるので、定着度の低い学年を詳しく分析し、次年度につなげていくことが必要である。また、家庭学習の充実を目指すことも課題である。
・縦割り活動が本校の取組として定着している。子どもたちの自己有用感、上級生に対する尊敬の心が育ってきている。取組の中で、効果が少ないもの、効果が大きかったものを調査し、再構築していく。
・本校で取り組んでいる「3つのあ」あじまつ、あじまつ、あじまつを今後も進めていく。児童だけでなく、保護者への呼びかけも学校だよりなどでやっていく。
・小中一貫教育を進めるために、まずは教職員の交流の活性化を図る。具体的には年間2回の京都嵯峨学園4校の授業交流、夏季合同研修会を実施する。

学校評価のねらい

○本校の使命と責務を果たすために、客観的な学校評価を通じて、課題となることを把握し、必要な措置を講じることで、更なる学校の改善・経営につなげていく。

	評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4 ○教育指導計画書の作成		○学校だより「嵯峨の心」 やHPにて教育方針を発信
	5 ○今年度の学校評価実施について検討	第1回嵯峨中運営協議会 ○教育方針説明 ○学校評価結果報告 ○評価実施	○評価年間計画HPで公表 ○学校運営協議会にて公表
	6 ○休日参観保護者アンケートの実施	第1回「京都嵯峨学園」 学園運営協議会開催 (小中連携運営協議会)	
	7 ○生徒アンケートの実施① ○保護者アンケート		
	8		
	9	第2回嵯峨中運営協議会 各担当部会の開催	
	10 ○教職員自己評価実施①		○学校だより「嵯峨の心」・ HPで評価結果公表①
	11		
	12 ○懇談時保護者アンケート実施 ○学校評価結果中間報告		
	1		
	2 ○生徒アンケートの実施② ○教職員自己評価実施② ○学校評価結果分析・改善検討	第3回嵯峨中運営協議会 ○学校評価結果報告 ○本年度の反省・課題 ○来年度に向けて検討	○学校運営協議会にて公表
	3 ○来年度に向けての共通理解	第2回「京都嵯峨学園」 学園運営協議会開催 ○本年度の課題と来年度の 方向検討	○学校だより「嵯峨の心」・ HPで評価結果公表②

1 教育目標及び子ども像・教職員像・学校像

教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、

- ・「確かな学力の定着」と「進路の保障」
- ・「キャリア教育」の充実
- ・「学級，学年集団活動」の充実

を通して『嵯峨の心』の育成を目指す

目指す子ども像（「嵯峨の心」の育成から）

- ① 感動する心・やさしい心・豊かな感性を持つ生徒の育成
- ② 正義感や公正さを重んじる心を持つ生徒の育成
- ③ 生命を大切にし、違いを認め合うなど、人権を尊重する心を持つ生徒の育成
- ④ 嵯峨・嵐山・広沢地域の環境や伝統文化を大切にする心を持つ生徒の育成
- ⑤ 「自己有用感」が持てる生徒の育成
- ⑥ 学ぶ意欲と実践力あふれる生徒（「一生懸命はカッコいい」を実践する生徒）の育成

目指す教職員像

- ① 目指す生徒像を念頭に置きつつ、その実現に向けて、仕掛けと働きかけを積極的に行い、生徒にかかわる教職員、かつ、生徒の背景に迫り、必要な手立てを講じる教職員であることを目指す。
- ② 教育目標を理解し、共有し、共にチーム（組織）の一員として実践する教職員集団であることを目指す。
- ③ 「全力を出し切る。途中であきらめない。（嵯峨中魂）」生徒の育成のために、「手を抜かない・突き放さない・時間を惜しまない」生徒指導を実践する教職員集団であることを目指す。

目指す学校像

『地域とともにある学校づくり』を目指して、取り組む。

- ① 地域とともに「環境保全」や「観光振興」をテーマに取り組みを行い地域に貢献する。その中で、生徒の自己有用感の獲得を目指す。
- ② 生徒は「環境学習」や「持続可能な社会を目指した取り組み（E S D）」を通して学びを獲得する。

2 学校経営方針

- ① 「生きる力」と「嵯峨の心」の育成。生徒の学ぶ意欲と自己評価を高めるための創意工夫ある教育活動を実践する。
- ② 地域との交流を重視し、地域とともにある学校づくりに取り組む。その中で生徒が育つことを目指す。
- ③ 学校教育目標を理解し、共有し、共にチーム（組織）の一員として実践する教職員集団をつくる。

3 今年度、徹底する取組

- ① 『全力を出し切る，途中であきらめない（嵯峨中魂）』生徒の育成。「一生懸命はカッコイイ」の実現。（さまざまな教育活動の中で自己有用感を獲得させる）
- ② 授業の中で，自己有用感を感じさせるように授業改善に取り組む

今年度の重点目標

平成 24 年度から、学習指導要領が全面実施されて 4 年目となる。その狙いを考慮し、本校の教育力向上と地域に根ざした「特色ある学校づくり」をすすめるために、以下の重点目標を設定する。

- ① 確かな学力の向上を図る取組の推進【学習指導】
- ② キャリア教育を柱とした教育活動の推進【生き方探究教育】
- ③ 学級集団づくりの充実【学級指導】
- ④ 持続可能な開発のための教育（E S D）の推進。環境教育の充実【今日的課題に対する取組推進】
- ⑤ 人権文化の定着【人権学習指導】
- ⑥ 規範意識の育成に向けた取組の推進【生徒指導】
- ⑦ 小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実【小中連携の推進】

平成 27 年度重点目標の詳細

① 確かな学力の向上を図る取組の推進【学習指導】

生徒の学習意欲向上と学力定着のために以下の取組をすすめる。

- 学年会・教科会の中で学力向上に向けた研修ができる時間の確保。
- 教科の指導と評価の一体化を確実に（生徒の意欲を向上させる評価）
- 学力の向上につながる授業研究と諸調査結果を生かした授業の改善
- 言語活動を通しての思考力・判断力・表現力の育成のための教育活動の実践（朝読書の充実・全教科での工夫）
- 家庭学習の充実（宿題の適切な質と量の工夫）
- 「学習確認プログラム」・「全国学力状況調査」の結果を検証し、放課後の特別学習会（GPS P）や長期休暇集中講座・定期テスト前学習会、土曜学習等、課題解決に向けた教育の実践
- すべての教育活動（挨拶・朝読書・部活動・学級活動・学校行事等）が授業に生かされる実践
- 発達障害のある生徒への理解を深める研修の実施と実践

② キャリア教育を柱とした教育活動の推進【生き方探究教育】

- 課題解決学習で地域を学ぶ（嵯峨学）と地域で学ぶキャリア教育の実践（人生学）を中心に、これまで取り組んできた教育活動をさらに推進する。体験重視の学習で、勤労観・職業観等のキャリア発達を促し、「生きる力」・「嵯峨の心」を育てる取組を実践する。

③ 学級集団づくりの充実【学級指導】

- 確かな学力の向上には、学校生活の基盤となる学級集団づくりを基にした学習環境の整備と生徒の自己有用感を高めることが必要であり、学級づくりのための創意工夫ある取組の充実を図るとともに、Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）・クラスマネージメントシートを学級づくりに活用する。
- 発達障害をはじめとする特別支援を必要とする生徒を含めた学級づくりの充実

④ 持続可能な開発のための教育（E S D）の推進。環境教育の充実【今日的課題に対する取組推進】

- 地域と連携した環境教育を推進し、持続可能な社会を形成する主体者たる生徒の育成
- 人権教育・平和教育・国際理解教育・多文化共生教育・福祉教育等も含み、E S Dの推進に取り組む。
- 具体的な活動の推進（身近な環境について調べる・環境壁新聞の制作・嵐山フィールドワーク・嵐山植樹活動・土産物企画・環境についての講演会・大堰川水草取り・嵯峨中パレード・嵯峨中フェスタにおけるポスターセッション・嵐山花灯路・小倉山植樹活動・地域清掃活動等）

⑤ 人権文化の定着【人権学習指導】

- 人権についての理解と定着のために、参加体験を取り入れる等、各学年の人権学習の取組を推進する。

⑥規範意識の育成に向けた取組の推進【生徒指導】

- 嵯峨中生徒として、規範意識を向上する。
 - ・きまりや約束を守る意識の向上
 - ・いじめをゆるさない意識の定着
- 生徒理解に基づき、積極的な生徒指導を推進する。
- 全教育活動を通じて、道德教育の充実を図る。
- 授業改善を通しての実践
 - ・授業中、生徒の集中力向上のための工夫（起立、礼の徹底等、学習規律の確立・授業前の教室の整備）
 - ・自己有用感を持たせることができる授業実践
- 基本的な生活習慣の確立（「早寝・早起き・朝ごはんに朝読書」の意識向上等）、個々の生徒の課題を把握理解し、その解決のために指導を徹底する。
- 「全力を出し切る。途中であきらめない。」という“嵯峨中魂”の育成と、全教職員が「手を抜かない・突き放さない・時間を惜しまない」生徒指導を実践する。

⑦小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実【小中連携の推進】

- 地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）の推進。
- 小中連携した教科指導など、教師間連携の充実。

平成 27 年度研究テーマ（研究指定等）

- ①「教育課程研究指定校事業 研究課題5（4）E S D テーマ『地域との連携によりE S Dを推進する教育のあり方を研究する』（国立教育政策研究所指定）…2年次
- ②「豊かな学びリーディングスクール、E S D・環境教育 テーマ『地域との連携によりE S Dを推進する教育のあり方を探究する。』推進事業研究指定（京都市教委指定）

嵯峨中学校の学校評価について

1 評価のねらい

自己評価と他者評価から現状の把握及び成果の検証をおこない、学校教育目標の達成に向け教育活動のさらなる充実と改善を図る。

2 重点評価項目

○確かな学力

- ・思考力・判断力・表現力の育成のための言語活動の充実
- ・学力向上に繋がる授業改善
- ・家庭学習の充実・習慣化による基礎学力の定着

○豊かな心

- ・豊かな体験活動の実践
- ・豊かな人間関係づくり（学級・学年・地域との繋がり）
- ・規範意識の醸成

○健やかな体

- ・基礎的な生活習慣の確立
- ・体力の向上

○独自の取組

- ・E S D（持続可能な開発のための教育）の取組
- ・小中一貫教育の充実
- ・情報発信の充実

3 評価手法

教職員・保護者・児童生徒に対するアンケートを実施した。その他、全国学力・学習状況調査、ジョイントプログラム、学習確認プログラムの結果及び日々の教育活動についての見取り、PTA及び学校運営協議会での意見等を踏まえて分析した。分析結果については、「学校評価実施報告書」を作成し教育委員会に報告するとともに、ホームページで公表した。また、本中学校区の小中合同学校運営協議会「京都嵯峨学園」として保護者アンケートを実施した。（59ページを参照）

4 アンケート結果等による分析

(1) 規範意識の向上について

アンケートの結果によると「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対しては肯定的な回答の生徒の割合は87.2%、「学校のきまりを守っていますか」の質問に対しては肯定的な回答の生徒の割合は96.6%であった。また、Q-U調査（楽しい学校生活を送るためのアンケート）やクラスマネジメント調査（学級実態の把握調査）の分析から、規律ある生活習慣やルールを守る態度の定着が見られた。

これらの肯定的な回答率の高さは、学年の縦割りや地域での活動を設定するなどの本校の特色ある教育活動を実践することで、多くの人との関わりの中で自己有用感を持たせることができた成果であると考えている。また、平常授業から「起立・礼」・「挨拶」

等の学習規律の確立、「授業前の教室整備」等を徹底させることで、規範意識の向上に地道に取り組んでいることも大きな要因であると考えている。

(2) 学習意欲を高める授業づくりと、家庭学習の充実について

アンケートの結果によると「生徒の間で話し合う活動をよく行っていましたか」の質問に対しては肯定的な回答の生徒の割合は87.6%、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対しては肯定的な回答の生徒の割合は76.8%であった。これは、本時のめあてを意識した授業、生徒同士の学びあいやアクティブ・ラーニングを含んだ授業を目指して平常授業からの授業改善を図ろうと取り組み、各学級に本時のめあてプレート（縦書き・横書き）とグループ学習時に各グループで活用するA3版のホワイトボード8～9枚を配備したことが大きな要因であると考えている。

また、家庭学習の充実に関しては、「平日は授業以外に平均何時間勉強していますか」の質問に対しては、「30分以上勉強している」生徒の割合は87.2%、「家で予習・復習をしている」生徒の割合はそれぞれ、47.4%と50.7%であった。割合としては満足できるものではないが、今年度より全校生徒に「エスノート」（生徒個人が自身の学びを振り返り、自ら学力を向上させるための手帳）を持たせ、一人一人の生徒が自分で家庭学習の時間の管理をする取組を継続させることで、徐々に改善していくものと考えている。

5 自己評価

学校評価実施報告書（57，58ページ）を参照

6 学校関係者評価

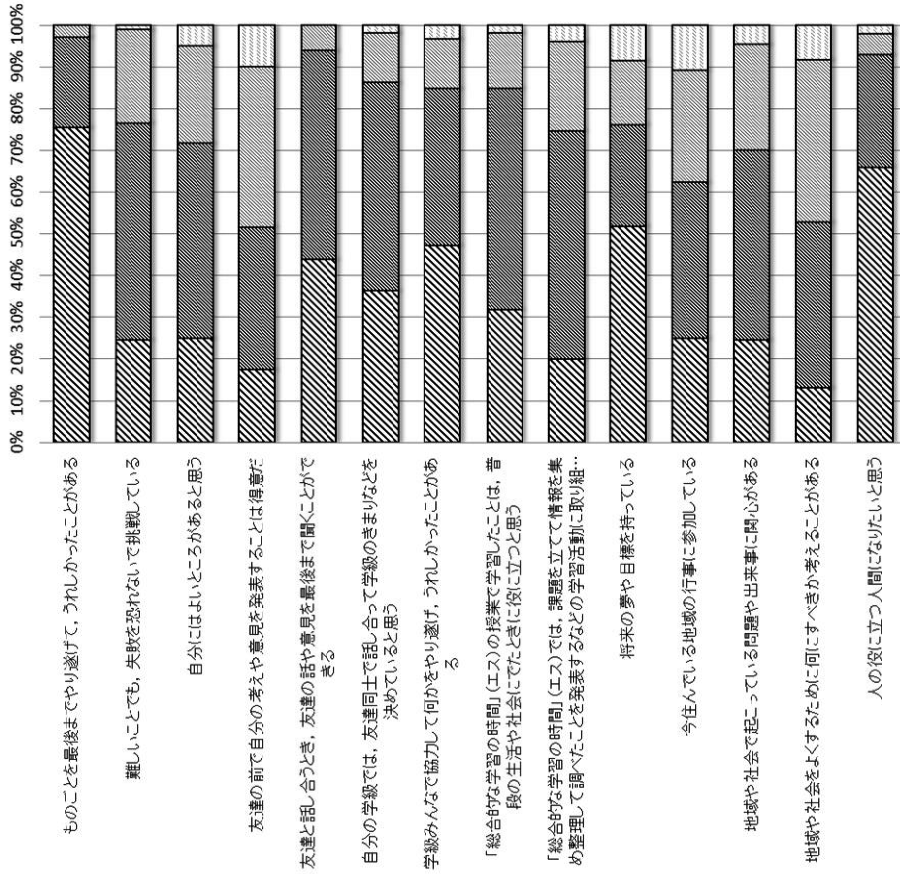
学校運営協議会による学校関係者評価では、「授業時間の担保や質の向上を図ってほしい」「嵯峨パレード等、取組の意義等を周知する必要がある」「中学校での取組が小学生や地域にあまり知られていないので周知のための広報システムをつくれればいいのではないか」という改善に対する意見をいただいた。一方、「地域と連携した取組が充実しているので今後も継続して取り組んでほしい」「教職員やPTAが熱心に取り組んでいる」「挨拶がしっかりできている」など教育活動や体制については高い評価を得ることができた。

7 総括・次年度に向けた課題等

- 学校評価のアンケート項目を学校運営や重点項目と連動させるように改善する。
- 本校教育への理解を図るためにホームページの活用等の広報活動の充実を図る。
- 嵯峨中パレード等行事について、教育課程との関連及び位置付けを明確にするとともに、負担感の軽減を図る。
- 次期学習指導要領を鑑みた学力の向上を図るため、アクティブ・ラーニングを含む授業改善をより推進する。

平成27年度 生徒アンケート集計結果 27年7月 【全学年】					
評価基準	1. そう思う	2. ほぼそう思う	3. あまり思わない	4. そう思わない	
番号	アンケート項目	1	2	3	4
1	ものを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	75.5%	21.7%	2.3%	0.5%
2	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	24.6%	51.9%	22.3%	1.1%
3	自分にはよいところがあると思う	24.9%	46.8%	23.3%	5.0%
4	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ	17.4%	34.3%	38.5%	9.9%
5	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	43.8%	50.0%	5.8%	0.3%
6	自分の学級では、友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う	36.4%	49.8%	11.9%	1.9%
7	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	47.3%	37.6%	11.9%	3.3%
8	「総合的な学習の時間」(エス)の授業で学習したことは、普段の生活や社会にでたときに役に立つと思う	31.9%	53.0%	13.3%	1.8%
9	「総合的な学習の時間」(エス)では、課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う	19.9%	54.8%	21.3%	4.0%
10	将来の夢や目標を持っている	51.8%	24.4%	15.2%	8.6%
11	今住んでいる地域の行事に参加している	24.9%	37.4%	26.9%	10.8%
12	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	24.6%	45.4%	25.4%	4.6%
13	地域や社会をよくするために何にすべきか考えることがある	13.1%	39.6%	38.8%	8.4%
14	人の役に立つ人間になりたいと思う	66.0%	26.9%	5.0%	2.1%

平成27年度 生徒生活アンケート【全学年】

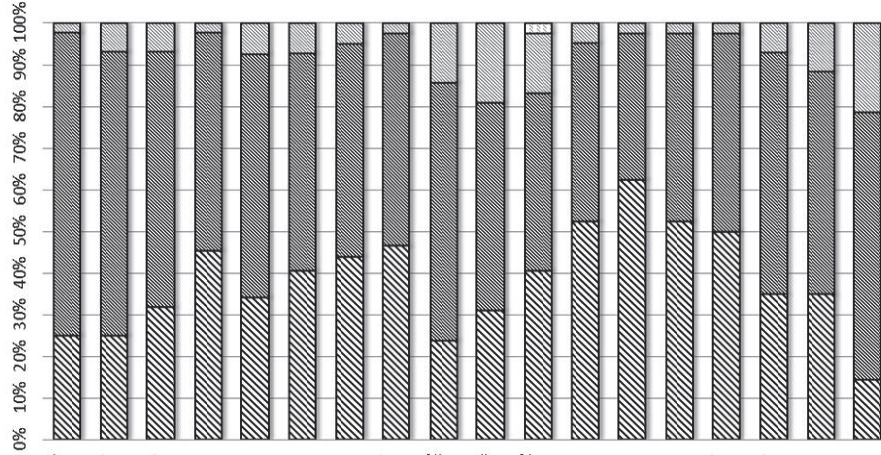


■ 系列1 ■ 系列2 ■ 系列3 □ 系列4

平成27年度 教職員自己評価 【全40通】

評価基準	1	2	3	4
1	25.0%	72.7%	2.3%	0.0%
2	25.0%	68.2%	6.8%	0.0%
3	31.8%	61.4%	6.8%	0.0%
4	45.5%	52.3%	2.3%	0.0%
5	34.1%	58.5%	7.3%	0.0%
6	40.5%	52.4%	7.1%	0.0%
7	43.9%	51.2%	4.9%	0.0%
8	46.5%	51.2%	2.3%	0.0%
9	23.8%	61.9%	14.3%	0.0%
10	31.0%	50.0%	19.0%	0.0%
11	40.5%	42.9%	14.3%	2.4%
12	52.4%	42.9%	4.8%	0.0%
13	62.5%	35.0%	2.5%	0.0%
14	52.4%	45.2%	2.4%	0.0%
15	50.0%	47.6%	2.4%	0.0%
16	34.9%	58.1%	7.0%	0.0%
17	34.9%	53.5%	11.6%	0.0%
18	14.3%	64.3%	21.4%	0.0%

平成27年度 教職員自己評価



平成27年度の教育目標を理解し、その実現にむけて教育活動が実践できたか、

保護者の方や地域の方との連携を重視し、活気のある開かれた学校づくりが実践できたか、

あらゆる教育活動について、教職員共通理解のもとで実践できたか、

「やるべきはやりきる・途中であきらめたりしない」生徒づくりを考えた教育実践ができたか、

生徒の学ぶ意欲を高め、わかりやすい創意工夫ある授業を展開できたか、

生徒ひとりひとりを理解し、心の通った生徒指導を実践できたか、

生徒の学ぶ意欲や自己有用感を高める教育活動が実践できたか、

本校の目標でもある特色ある学校づくりを意識した取組を実践できたか、

保護者の方や地域の方の思いや願いを聞き、教育活動が実践できたか、

課題のある生徒達に、家庭訪問や電話などで家庭への連携、連絡をきめ細かくできたか、

保護者が気軽に話や相談できる等、信頼関係ができる丁寧な対応に心がけてきたか、

生徒の誤った言動に対しては、すばやく対応し指導してきたか、

評価・評定に関しては自信をもってつけられたか、

生徒が学校生活や学級活動で楽しく、友達と仲良く過ごせるような指導実践ができたか、

生徒が学校行事や部活動などに積極的に参加するように指導実践ができたか、

生徒の悩みや心身の健康などについて、気軽に相談できる関係づくりが心がけて取り組めたか、

教育の新しい流れを積極的に学び、取り入れようとしているか、

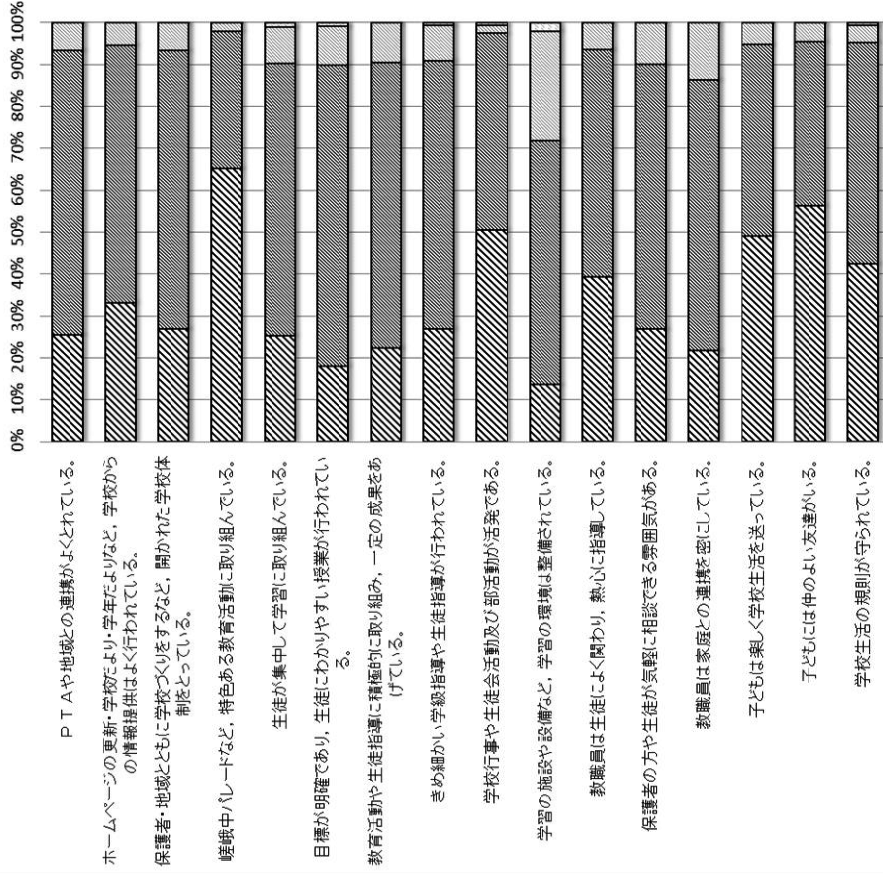
アスペルガー、ADHD、LD等、発達障害のある生徒対応について、適切な指導実践ができたか、

■ 系列1 ■ 系列2 ■ 系列3 □ 系列4

平成27年度 学校教育活動保護者アンケート 27年7月 【全371通】

項目	アンケート項目	1	2	3	4
学校運営	PTAや地域との連携がよくとれている。	25.5%	67.9%	6.3%	0.3%
	ホームページの更新・学校だより・学生だよりなど、学校からの情報提供はよく行われている。	33.2%	61.4%	5.4%	0.0%
	保護者・地域とともに学校づくりをするなど、開かれた学校体制をとっている。	27.0%	66.4%	6.3%	0.3%
	味噌中パレードなど、特色ある教育活動に取り組んでいる。	65.3%	32.8%	1.7%	0.3%
教育活動	生徒が集中して学習に取り組んでいる。	25.3%	64.9%	8.6%	1.1%
	目標が明確であり、生徒にわかりやすい授業が行われている。	18.1%	71.9%	9.2%	0.9%
	教育活動や生徒指導に積極的に取り組み、一定の成果をあげている。	22.4%	68.1%	9.2%	0.3%
	さめ細かい学級指導や生徒指導が行われている。	27.0%	63.8%	8.6%	0.6%
施設・設備	学校行事や生徒会活動及び部活動が活発である。	50.6%	46.8%	2.0%	0.6%
	学習の施設や設備など、学習の環境は整備されている。	13.6%	58.2%	26.3%	2.0%
	教職員は生徒によく関わり、熱心に指導している。	39.4%	54.1%	6.2%	0.3%
	保護者の方や生徒が気軽に相談できる雰囲気がある。	26.9%	63.1%	9.7%	0.3%
生徒の姿	教職員は家庭との連携を密にしている。	21.7%	64.5%	13.4%	0.3%
	子どもは楽しく学校生活を送っている。	49.1%	45.7%	5.0%	0.3%
	子どもには仲のよい友達がいる。	56.2%	39.1%	4.3%	0.3%
	学校生活の規則が守られている。	42.5%	52.8%	4.1%	0.6%

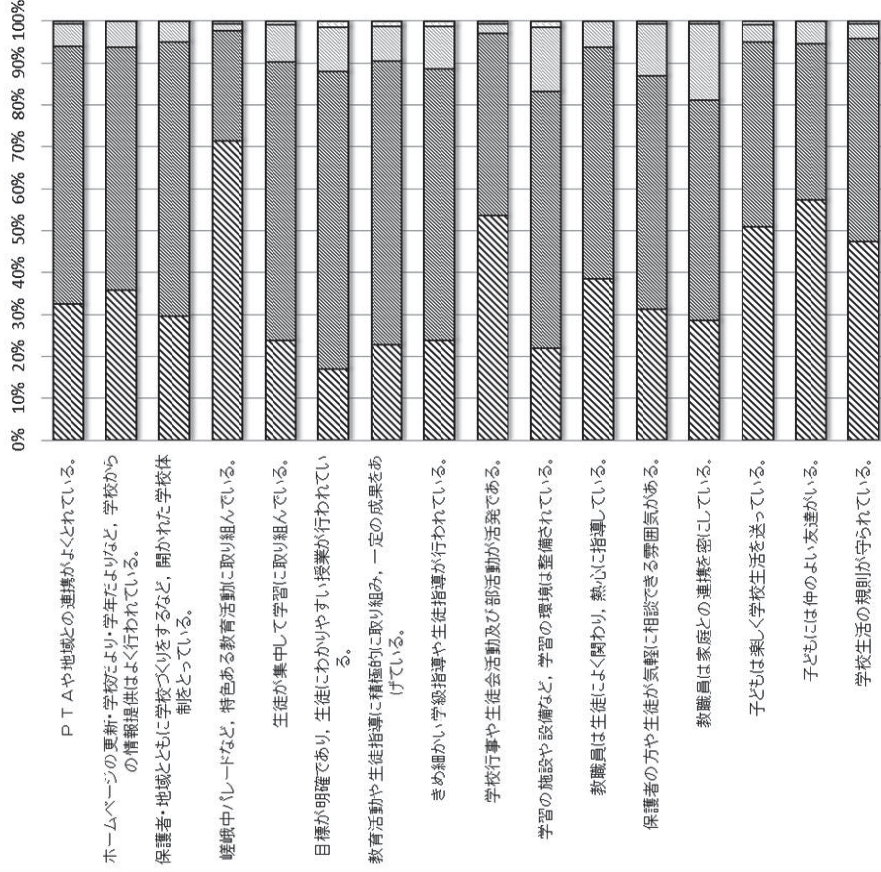
学校教育活動保護者アンケート 27年7月



平成27年度 学校教育活動保護者アンケート 27年12月 【全354通】

項目	アンケート項目	1	2	3	4
学校運営	PTAや地域との連携がよくとれている。	32.4%	61.6%	5.4%	0.6%
	ホームページの更新・学校だより・学生だよりなど、学校からの情報提供はよく行われている。	35.8%	57.9%	6.0%	0.3%
教育活動	保護者・地域とともに学校づくりをするなど、開かれた学校体制をとっている。	29.5%	65.6%	4.6%	0.3%
	嵯峨中パレードなど、特色ある教育活動に取り組んでいる。	71.5%	26.2%	1.7%	0.6%
	生徒が集中して学習に取り組んでいる。	23.8%	66.5%	8.9%	0.9%
	目標が明確であり、生徒にわかりやすい授業が行われている。	17.0%	70.9%	10.7%	1.4%
施設・設備	教育活動や生徒指導に積極的に取り組み、一定の成果をあげている。	22.8%	67.6%	8.4%	1.2%
	さめ細かい学級指導や生徒指導が行われている。	23.9%	64.8%	10.1%	1.2%
	学校行事や生徒会活動及び部活動が活発である。	53.6%	43.6%	2.3%	0.6%
	学習の施設や設備など、学習の環境は整備されている。	21.9%	61.3%	15.4%	1.4%
教職員の姿	教職員は生徒によく関わり、熱心に指導している。	38.5%	55.2%	6.3%	0.0%
	保護者の方や生徒が気軽に相談できる雰囲気がある。	31.2%	55.7%	12.4%	0.6%
生徒の姿	教職員は家庭との連携を密にしている。	28.5%	52.6%	18.3%	0.6%
	子どもは楽しく学校生活を送っている。	50.9%	44.0%	4.1%	0.9%
	子どもには仲のよい友達がいる。	57.3%	37.3%	5.1%	0.3%
	学校生活の規則が守られている。	47.5%	48.4%	3.5%	0.6%

学校教育活動保護者アンケート 27年12月



平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立嵯峨中学校)

1 平成27年度 重点評価項目

1. 言語活動の充実と授業改善 2. 体験活動の実践と規範意識の醸成 3. 基本的な生活習慣の確立と健康教育の推進

2 1回目評価

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価
1	確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> 発表形態の工夫と充実 小型ホワイトボードの全クラス配備 校内研究授業の実施(年2回) 教科書の充実 少人数授業や教員複数制によるきめ細やかな指導の充実 GE・SPI(学習記録プログラム)活用の特別授業(週1) ESノート(ふりかえり向上手帳)による家庭学習時間の管理 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の間で話し合う活動をよく行っている 自分の考えを認めたり、広げたりすることができていますか。 全国学力学習状況調査結果 英語A 79.0(+3.2) 国語B 71.8(+6.0) 数学A 68.5(+2.1) 数学B 44.1(+2.5) 理科 66.5(+3.5) 「30分以上勉強している」生徒の割合は97.2% 肯定的な回答の生徒の割合は52.6% 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的な回答の生徒の割合は87.6% 肯定的な回答の生徒の割合は76.8% 	<p>平成27年8月25日</p> <p>学校評価委員会(運営委員会)</p> <p>自己評価</p> <p>自己評価に対する改善策</p> <p>ベアや小グループでの活動を導くことや「話す・聞く能力のさらなる伸長を図る。」</p> <p>「教科書のみならず、全ての教育活動で「書く」活動を行い、文章力の向上を図る。」</p> <p>ESノート(ふりかえり向上手帳)を活用し、家庭学習を自主的に管理することにより、家庭学習の習慣化を図る。</p>	<p>平成27年9月16日</p> <p>学校運営協議会</p> <p>学校評議員による改善に向けた支援策</p> <p>学校関係者評価による意見</p> <p>言語活動の向上・授業の改善については、教材の充実を含め今後も具体的な工夫を重ね、成果が見えとれるように就取組を進めてほしい。</p> <p>地域にある教育資源をさらに活用するため、学校運営協議会や嵯峨教育振興会としても人材などを紹介できるように尽力する。</p>
2	豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動 「嵯峨の心」の育成 3大行事の実施 Q・U(楽しい)学校生活を送るためのアンケートの活用 地域と連携した取組 地域とのつながり 	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある教育活動に取り組んでいる。(保護者) 学校に行きの楽しさや思いやりが、 地域の行事に参加していますか。 地域との連携がよくとれている。(保護者) 98.1%が肯定的な意見(保護者) 肯定的な回答の生徒の割合は87.2% 肯定的な回答の生徒の割合は54.1% 肯定的な回答の保護者の割合は93.4% 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的な回答の生徒の割合は96.2% 肯定的な回答の生徒の割合は93.3% 	<p>平成27年8月25日</p> <p>学校評価委員会(運営委員会)</p> <p>自己評価</p> <p>自己評価に対する改善策</p> <p>多くの地域の行事があるが、教職員及び生徒に周知が徹底されていないことが多い。周知を図るとともに部活動の調整を図り参加を促す。(今年度は、実際の質問項目については、9割以上の生徒が肯定的な回答をして、これは、縦割りや地域での教育活動を設定し、多くの生徒のかかわりの中で自己有用感を持つことができ、成果であると考えている。ただ、依然として「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありま</p>	<p>平成27年8月25日</p> <p>学校評価委員会(運営委員会)</p> <p>自己評価</p> <p>自己評価に対する改善策</p> <p>多くの地域の行事があるが、教職員及び生徒に周知が徹底されていないことが多い。周知を図るとともに部活動の調整を図り参加を促す。(今年度は、実際の質問項目については、9割以上の生徒が肯定的な回答をして、これは、縦割りや地域での教育活動を設定し、多くの生徒のかかわりの中で自己有用感を持つことができ、成果であると考えている。ただ、依然として「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありま</p>
3	健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律の徹底 道徳教育の推進 自己有用感の獲得 朝食・早起き・朝ごはん 朝読書の取組 食教育の推進 愛宕登山競走の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べていますか。 毎日同じぐらいの時刻に寝ている、起きていますか。 朝読書参加状況 朝食・早起き・朝ごはん 朝読書の取組 食教育の推進 愛宕登山競走の取組 肯定的な回答の生徒の割合は83.9% 「起きている」生徒の割合は38.9% 「寝ている」生徒の割合は68.2% 「参加している」生徒の割合は90% 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べていますか。 毎日同じぐらいの時刻に寝ている、起きていますか。 朝読書参加状況 朝食・早起き・朝ごはん 朝読書の取組 食教育の推進 愛宕登山競走の取組 肯定的な回答の生徒の割合は83.9% 「起きている」生徒の割合は38.9% 「寝ている」生徒の割合は68.2% 「参加している」生徒の割合は90% 	<p>平成27年8月25日</p> <p>学校評価委員会(運営委員会)</p> <p>自己評価</p> <p>自己評価に対する改善策</p> <p>「早寝・早起き・朝ごはん」に朝読書の活動を継続的に推進していく。</p> <p>ESノート(ふりかえり向上手帳)を活用し、自主的な時間管理を徹底していく。</p>	<p>平成27年8月25日</p> <p>学校評価委員会(運営委員会)</p> <p>自己評価</p> <p>自己評価に対する改善策</p> <p>「早寝・早起き・朝ごはん」に朝読書の活動を継続的に推進していく。</p> <p>ESノート(ふりかえり向上手帳)を活用し、自主的な時間管理を徹底していく。</p>
4	独自の取組	<ul style="list-style-type: none"> 研究指定(国立教育政策研究所) 京都嵯峨学園の設置 小中合同の校外活動 小中合同研修会、連絡会 積極的なホームページの更新 嵯峨中だよりの発行 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか。 京都嵯峨学園としての活動状況 小中合同の会議・研修、取組の状況 ホームページのアクセス数 学校からの情報提供はよく行われていますか。 肯定的な回答の生徒の割合は53.0% 小中連携主任会の実施 小中連携事業の実施 32512(前年比+5641)件のアクセス(4月~10月) 肯定的な回答の保護者の割合は94.6% 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的な回答の生徒の割合は53.0% 小中連携主任会の実施 小中連携事業の実施 32512(前年比+5641)件のアクセス(4月~10月) 肯定的な回答の保護者の割合は94.6% 	<p>平成27年8月25日</p> <p>学校評価委員会(運営委員会)</p> <p>自己評価</p> <p>自己評価に対する改善策</p> <p>ESDに關しては、今年度行う研究報告会に向けて各教科で取り組んでいる。また、地域に向けた発信も嵯峨中ハロート等を通して行っている。</p> <p>小中連携に關しては、各小中学校との個別の連携は充実してきたが、小中連携を含む京都嵯峨学園全体としての連携はなかなか進みにくい現状がある。</p> <p>情報発信については、昨年度より大幅にアクセス数を伸ばした。日々の閲覧状況は伸び悩んでいる。</p>	<p>平成27年8月25日</p> <p>学校評価委員会(運営委員会)</p> <p>自己評価</p> <p>自己評価に対する改善策</p> <p>ESDに關しては、今年度行う研究報告会に向けて各教科で取り組んでいる。また、地域に向けた発信も嵯峨中ハロート等を通して行っている。</p> <p>小中連携に關しては、各小中学校との個別の連携は充実してきたが、小中連携を含む京都嵯峨学園全体としての連携はなかなか進みにくい現状がある。</p> <p>情報発信については、昨年度より大幅にアクセス数を伸ばした。日々の閲覧状況は伸び悩んでいる。</p>

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立嵯峨中学校)

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定		自己評価		学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	分析(成果と課題)	学校評価委員会(運営委員会)
1	<p>思考力・判断力・表現力等の育成のための言語活動の充実</p> <p>学力向上につながる授業改善</p> <p>家庭学習の充実・学習習慣による基礎学力の定着</p>	<p>発表形態の工夫と充実</p> <p>小型ホワイトボードの全クラス配置</p> <p>校内研修の実施(年2回)</p> <p>教科金の充実</p> <p>少人数授業や教員数割制によるきめ細やかな指導の充実</p>	<p>アンケート項目・各種指標</p> <p>生徒が集中して学習に取り組んでいますか。</p> <p>目標が明確であり、生徒がわかりやすい授業が行われていますか。</p> <p>全国学力学習状況調査の結果</p> <p>国語A 全国比+3.2 国語B 全国比+4.0</p> <p>数学A 全国比+2.1 数学B 全国比+2.5</p> <p>理科 全国比+3.5</p>	<p>自己評価に対する改善策</p> <p>若手教員が急増する中、専門性の向上をはかることが喫緊の課題となっており。次年度は、教科書を充実させOJTを推進するなかで授業や定期テストの質の向上を図りたいと考えています。</p> <p>本校では課外学習活動や補充学習に計画的に取り組んでいるが、学力の向上には至っていない。次年度は、2種化の解消には至っていない。年度性は、発達障害をはじめとする個性による学力の偏りのある生徒への対策と、いわゆる倦怠学習傾向の生徒をしっかりと見極めて、個に応じた指導の充実を図りたい。</p>	<p>学校関係者評価による意見</p> <p>子どもたちの学力向上に向けて、授業時間の担保や質の向上を図ってほしい。</p> <p>地域にある教育資源をさらに活用できるように、学校運営協議会や嵯峨教育振興会で人材などを紹介できるようにし、学力向上に繋げたい。</p>
2	<p>豊かな体験活動の実践</p> <p>豊かな人間関係づくり(学級・学年・地域とのつながり)</p> <p>規範意識の醸成</p>	<p>ボランティア活動</p> <p>「嵯峨の心」の育成</p> <p>3大行事の実施</p> <p>Q・U・楽しい学校生活を送るためのアンケートの活用</p> <p>地域と連携した取組</p> <p>学習規律の醸成</p> <p>道徳教育の推進</p> <p>自己有用感の獲得</p>	<p>特色ある教育活動に取り組んでいる。(保護者)</p> <p>本校に行きたいと思えますか。</p> <p>地域の行事に参加していますか。</p> <p>開かれた学校体制とつながりを感じていますか。(保護者)</p> <p>学校のまわりを守っていますか。</p> <p>自分にはよいところがあると感ずる。</p>	<p>分析(成果と課題)</p> <p>全市平均との比較ではおおむね上回っているものの、度分布比較グラフから、学力の偏り傾向が認められる。ただ、B問題に上回ることが認められ、グループワーク等の授業改善の成果が徐々にあるが、残っていると感じている。また、保護者も生徒の学習状況を肯定的に見ていただいている。</p> <p>家庭学習に関しては、一定の時間、確保している生徒が増えている。今年度、家庭学習の時間を可視化するために導入した振り返り向上手帳の成果が表れたと考えている。ただ、学習、復習の割合が少ないので、塾に依存している生徒の割合も多い。</p> <p>肯定的な回答率の高さは、学年の縦割りなどの活動が定着することで、多くの人が自分の中で自己有用感を持てるようになってきた成果であると考えている。</p> <p>OJT調査やアンケートの分析から、規律ある生活習慣やルールを守る態度の定着が見られる。</p> <p>地域と協働した取組を推進している割に、地域の行事の参加率が低い。部活動との兼ね合いもあるが、積極的な参加を図っていく必要がある。</p>	<p>学校関係者評価に</p> <p>嵯峨中ハイレードは次年度も継続してほしい。</p> <p>ハイレード等の行事の時間が多すぎるという意見がある。取組の意義等を周知する必要がある。</p>
3	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <p>体力の向上</p>	<p>早寝・早起き・朝ごはんに朝読書の取組</p> <p>食教育の推進</p> <p>愛宕登山競走の取組</p> <p>地域主催のスポーツ大会</p>	<p>朝練習参加状況</p> <p>参加者数</p>	<p>自己評価</p> <p>基本的な生活習慣の確立に関しては一定の成果をあげている。ただ、入まるとの課題に対する手立て十分になされていない。次年度は、関係機関の各種防止教室等を活用し、計画的な取組をすすめていく。</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>グラウンドゴルフ大会は参加者も多く盛況だった。ただ、これ以上、参加者を増やすことができない。</p> <p>各種防止教室を行っている。</p>
4	<p>独自の取組</p>	<p>研究指定(国立教育政策研究所)</p> <p>京都嵯峨学園の設置</p> <p>小中合同の校外活動</p> <p>小中合同研修会、連絡会</p> <p>情報発信の充実</p> <p>嵯峨中だよりの発行</p>	<p>ESSDの取組</p> <p>小中一貫教育の充実</p> <p>情報発信の充実</p>	<p>自己評価</p> <p>ESDランダーを活用し、各教育活動で育みやすい能力、資質を明確にして取り組んでいきたい。</p> <p>小中連携に関しては、取組の意義や実践の内容が地域や保護者の方に伝わるように周知活動を工夫していく。</p> <p>ホームページで発信する情報を増やし、毎日の更新を目指す。</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>京都嵯峨学園の認知度が低いように思う。</p> <p>中学校での取組が小学生や地域の方に知られていないので、広報のシステムをつくらなければならない。</p>

4 総括・次年度の課題

アンケートの結果や学校運営協議会の意見から、本校の地域と連携した教育活動や京都嵯峨学園と称した小中一貫校としての教育活動については概ね高い評価をいただいている。また、検証委員会の委員の方からも、取組の方向性は、次期指導要領の趣旨と同じ方向を向いているので継続して取り組んでほしいとの評価を受けた。また、課題として、教職員の異動等で取組の意義や趣旨の理解がなされないまま取り組む中で、形骸化していきかねる。今後の継続・発展のために、OJTの体制づくりを早急に行う必要性を感じる。評価に関する各種アンケートについては、経年変化を追えるように項目を変えずにおこなっていき、次年度は、学校の取組の成果をはかる項目を追加することも含め、学校評価、学園評価等の各種評価を整理し再構築していきたいと考えている。

平成27年度 小中連携・京都嵯峨学園（全体）の教育活動に関するアンケート

教育活動に関する保護者アンケート結果



京都嵯峨学園

京都市立嵯峨中学校

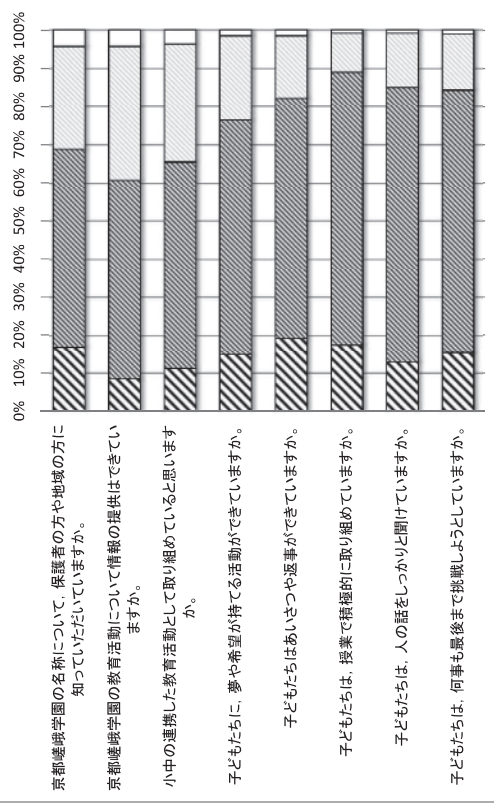
京都市立嵯峨小学校

京都市立嵐山小学校

京都市立広沢小学校

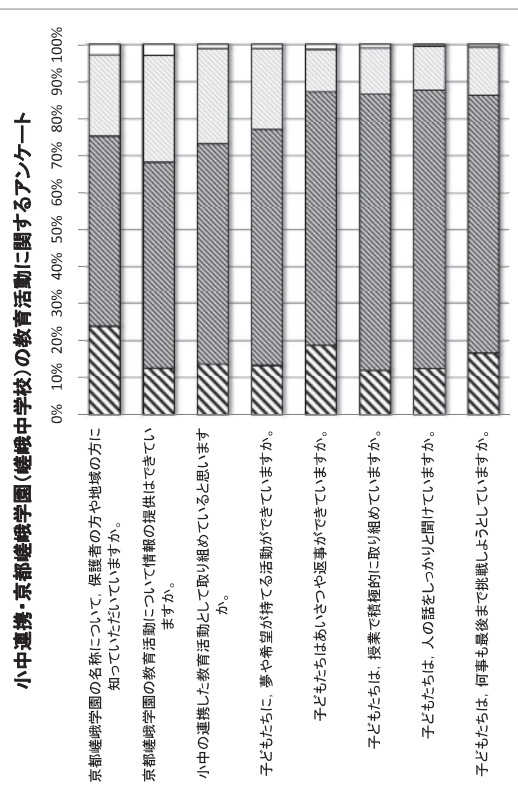
項目	アンケート項目	1	2	3	4
運営について	京都嵯峨学園の名称について、保護者の方や地域の方に知っていただいていますか。	16.9%	51.9%	26.9%	4.3%
	京都嵯峨学園の教育活動について情報提供はできていますか。	8.5%	52.3%	35.0%	4.3%
教育活動	小中の連携した教育活動として取り組んでいると思いますか。	11.1%	54.4%	30.8%	3.7%
	子どもたちに、夢や希望が持てる活動ができていますか。	14.8%	61.5%	22.1%	1.5%
	子どもたちはあいさつや返事ができていますか。	19.2%	63.2%	16.2%	1.5%
	子どもたちは、授業で積極的に取り組んでいますか。	17.4%	71.5%	10.1%	0.9%
	子どもたちは、人の話をしっかりと聞けていますか。	12.8%	72.3%	14.0%	0.9%
	子どもたちは、何事も最後まで挑戦しようとしていますか。	15.3%	69.0%	14.6%	1.0%

小中連携・京都嵯峨学園（全体）の教育活動に関するアンケート



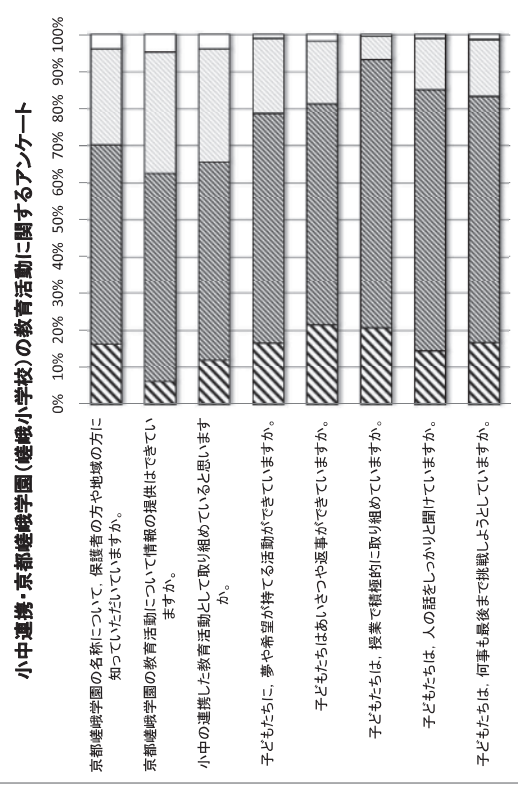
平成27年度 小中連携・京都嵯峨学園（嵯峨中学校）の教育活動に関するアンケート

項目	アンケート項目				
	1	2	3	4	
運営について	京都嵯峨学園の名称について、保護者の方や地域の方 に知っていただいていますか。	23.7%	51.4%	22.0%	2.8%
	京都嵯峨学園の教育活動について情報の提供はできて いますか。	12.6%	55.6%	28.9%	2.9%
教育活動	小中の連携した教育活動として取り組めていると思 いますか。	13.7%	59.5%	25.7%	1.2%
	子どもたちに、夢や希望が持てる活動ができていま すか。	13.3%	63.6%	21.9%	1.2%
	子どもたちはあいさつや返事ができていますか。	18.6%	68.6%	11.4%	1.4%
	子どもたちは、授業で積極的に取り組んでいますか。	12.0%	74.6%	12.4%	1.0%
	子どもたちは、人の話をしっかりと聞けていますか。 子どもたちは、何事も最後まで挑戦しようとしていま すか。	12.4%	75.3%	11.9%	0.5%
		16.6%	69.6%	13.1%	0.7%



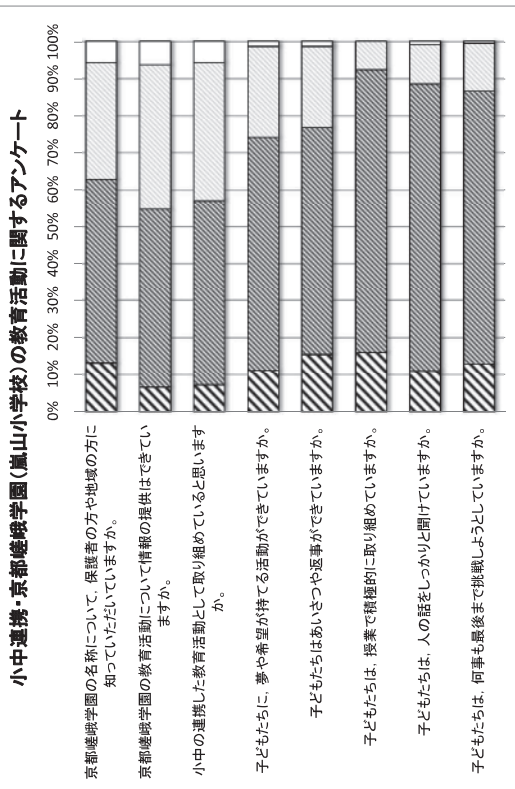
平成27年度 小中連携・京都嵯峨学園（嵯峨小学校）の教育活動に関するアンケート

項目	アンケート項目				
	1	2	3	4	
運営について	京都嵯峨学園の名称について、保護者の方や地域の方 に知っていただいていますか。	16.2%	53.9%	26.0%	3.9%
	京都嵯峨学園の教育活動について情報の提供はできて いますか。	6.1%	56.4%	32.7%	4.7%
教育活動	小中の連携した教育活動として取り組めていると思 いますか。	12.0%	53.5%	30.5%	3.9%
	子どもたちに、夢や希望が持てる活動ができていま すか。	16.5%	62.0%	20.4%	1.1%
	子どもたちはあいさつや返事ができていますか。	21.4%	59.9%	17.0%	1.7%
	子どもたちは、授業で積極的に取り組んでいますか。	20.6%	72.7%	6.1%	0.6%
	子どもたちは、人の話をしっかりと聞けていますか。 子どもたちは、何事も最後まで挑戦しようとしていま すか。	14.5%	70.5%	13.9%	1.1%
	16.7%	66.6%	15.3%	1.4%	



平成27年度 小中連携・京都嵯峨学園（嵐山小学校）の教育活動に関するアンケート

項目	アンケート項目				
	1	2	3	4	
運営について	京都嵯峨学園の名称について、保護者の方や地域の方に知っていただいていますか。	13.1%	49.7%	31.4%	5.7%
	京都嵯峨学園の教育活動について情報の提供はできていますか。	6.6%	48.1%	39.0%	6.3%
教育活動	小中の連携した教育活動として取り組んでいると思いますか。	7.1%	50.0%	37.1%	5.7%
	子どもたちに、夢や希望が持てる活動ができていますか。	11.1%	62.9%	24.6%	1.4%
	子どもたちはあいさつや返事ができていますか。	15.4%	61.1%	22.0%	1.4%
	子どもたちは、授業で積極的に取り組んでいますか。	16.0%	76.3%	7.7%	0.0%
	子どもたちは、人の話をしっかりと聞いていますか。	10.9%	77.7%	10.6%	0.9%
	子どもたちは、何事も最後まで挑戦しようとしていますか。	12.9%	73.7%	12.9%	0.6%



平成27年度 小中連携・京都嵯峨学園（広沢小学校）の教育活動に関するアンケート

項目	アンケート項目				
	1	2	3	4	
運営について	京都嵯峨学園の名称について、保護者の方や地域の方に知っていただいていますか。	14.7%	52.4%	28.0%	4.9%
	京都嵯峨学園の教育活動について情報の提供はできていますか。	8.4%	48.9%	39.6%	3.1%
教育活動	小中の連携した教育活動として取り組んでいると思いますか。	11.6%	54.7%	29.8%	4.0%
	子どもたちに、夢や希望が持てる活動ができていますか。	18.4%	57.6%	21.7%	2.3%
	子どもたちはあいさつや返事ができていますか。	21.2%	63.1%	14.4%	1.4%
	子どもたちは、授業で積極的に取り組んでいますか。	21.0%	62.5%	14.3%	2.2%
	子どもたちは、人の話をしっかりと聞いていますか。	13.4%	65.6%	19.6%	1.3%
	子どもたちは、何事も最後まで挑戦しようとしていますか。	15.1%	66.2%	17.3%	1.3%

